

【Ⅲ 資料】

資料 1

可搬型モニタリングポストの稼働・通信訓練の結果について

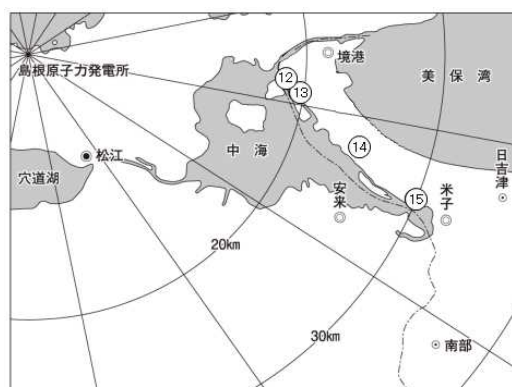
1 概要

緊急時に備え、4地点において可搬型モニタリングポストの連続稼働・通信訓練を実施し、年間を通じて安定した稼働状態であることを確認した。

2 結果概要

(1) 設置場所

項目	設置場所
線	境港市渡町 (障がい者支援施設光洋の里) ⑫
量	境港市渡町 (渡駐在所) ⑬
率	米子市大崎 (大崎駐在所) ⑭
	米子市旗ヶ崎 (旗ヶ崎交番) ⑮



(2) 結果

年間を通じて、安定した稼働及び通信状態であることを確認した。

表 稼働結果

(単位： $\mu\text{Gy/h}$)

地点	区分	R01 年度	(参考) 設置時から H30 年度まで	設置年度
障がい者支援施設 光洋の里	最高値	0.111	0.113	H30
	最低値	0.029	0.029	
	平均値	0.057	0.057	
渡駐在所	最高値	0.096	0.126	H26
	最低値	0.048	0.038	
	平均値	0.056	0.059	
大崎駐在所	最高値	0.099	0.123	H26
	最低値	0.053	0.041	
	平均値	0.060	0.062	
旗ヶ崎交番	最高値	0.095	0.116	H26
	最低値	0.049	0.048	
	平均値	0.058	0.060	

資料 2

境港局における積算線量の測定結果について

1 概要

令和元年度第4四半期の境港局における積算線量が過去の測定結果を下回ったことから、その要因について検討を行った。検討の結果、フェンス変更及び非常用発電機設置に係る工事及び積算線量計の移設が影響している可能性もあるが、明確な要因は不明であり、今後の測定結果について注視する。

2 要因調査

(1) 積算線量測定結果

- 測定を開始した平成28年度から令和元年度までの積算線量測定結果を表1と図1に示すが、令和元年度第4四半期の積算線量が過去の測定結果（H28～H30年度）の最小値171 μ Gy/90dを下回った。
- 表1より、各年度ともに第4四半期に低い値を示すが、第3四半期から第4四半期の測定結果を差し引いた値（割合）は、平成28～30年度は3～4 μ Gy/90d（1.7～2.3%）であるが、令和元年度は9 μ Gy/90d（6.4%）とやや大きい。

表1 積算線量測定結果（平成28年度～令和元年度）

年度	積算線量（ μ Gy/90d）					年間線量 (mGy/年)
	第1四半期 (4～6月)	第2四半期 (7～9月)	第3四半期 (10～12月)	第4四半期 (1～3月)	過去の測定結果 の最小～最大値	
H28年度	186	188	177	174	171～188	0.733
H29年度	182	184	177	173		0.725
H30年度	180	180	174	171		0.716
R01年度	177	175	171	160	—	0.694

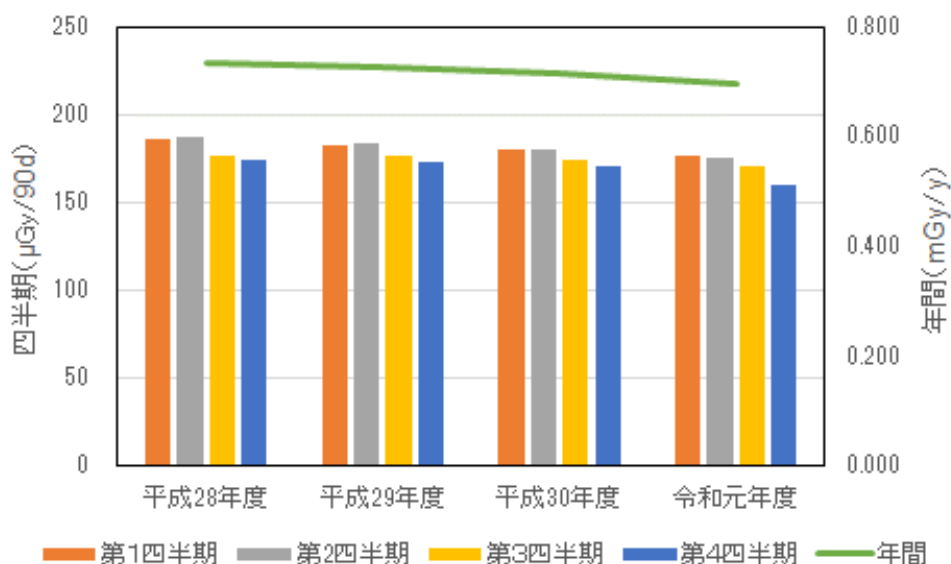


図1 積算線量測定結果（境港局、平成28年度～令和元年度）

- 境港局の空間放射線量率の測定結果を表2に示す。

表2 固定局（境港局）の空間放射線量率測定結果（平成25年度～令和元年度）

（単位：μ Gy/h）

年度	最大値	最小値	平均値
H25年度	0.111	0.050	0.062
H26年度	0.116	0.048	0.059
H27年度	0.114	0.051	0.060
H28年度	0.117	0.045	0.060
H29年度	0.103	0.036	0.060
H30年度	0.104	0.048	0.058
R01年度	0.112	0.050	0.056

（2）積算線量計素子の状況

積算線量計素子による積算線量低下の要因について検討した。

- 測定に使用した積算線量計素子について、測定前後で素子表面の白濁、欠損等の異常がないことを確認したとともに、対照測定用を含めた積算線量計の読取値の変動係数が適正範囲（3.0%未満）であることから、測定結果が異常値ではないことを確認した。
- 冬期の積算線量低下の要因としては、気温による感度低下の影響と積雪による大地からの放射線遮へいの影響が考えられる。表3に令和元年度第4四半期（1月～3月）の平均気温と降雪量日最大を示す。
- 気温による感度低下の影響については、新潟県¹⁾の報告のなかで、6.5℃と8℃の間で感度が大きく変化する温度特性を有し、気温2℃では14.5℃に比べて約3%感度低下が生じるとされている。本県の平成28年度環境放射線等測定結果において、木地山局の平成28年度第4四半期（平均気温2.1℃）が第3四半期（平均気温14.6℃）と比べ4～6 μ Sv/90dの感度影響を受けていると推察した事例もあるが、今回の事例では表3に示すとおり、令和元年度第4四半期の月平均気温は6.9～10.2℃であり、過年度と比べ特に低温ではなく、気温による感度低下の影響は少ないものと推察される。
- 積雪による放射線遮へいの影響については、表3に示すとおり、降雪量日最大が5 cmであることから、積雪による影響も少なかったものと推察される。

表3 境港局の第4四半期における気温と降雪量

年度	平均気温（℃）			最深積雪量 （cm）
	1月	2月	3月	
平成26年度	4.9	5.2	8.0	19
平成27年度	4.8	5.5	9.1	18
平成28年度	5.8	5.9	8.3	32
平成29年度	3.3	2.7	8.9	64
平成30年度	6.7	7.5	9.7	0
令和元年度	8.1	6.9	10.2	5

※ 最深積雪量は気象庁の過去データ（境観測所）を引用

（3）積算線量計の設置状況

境港局の積算線量計の設置場所については、測定を開始した平成28年度から令和元年度の間に2回移設している（図2）。

移設の時期と状況について下記に示す。

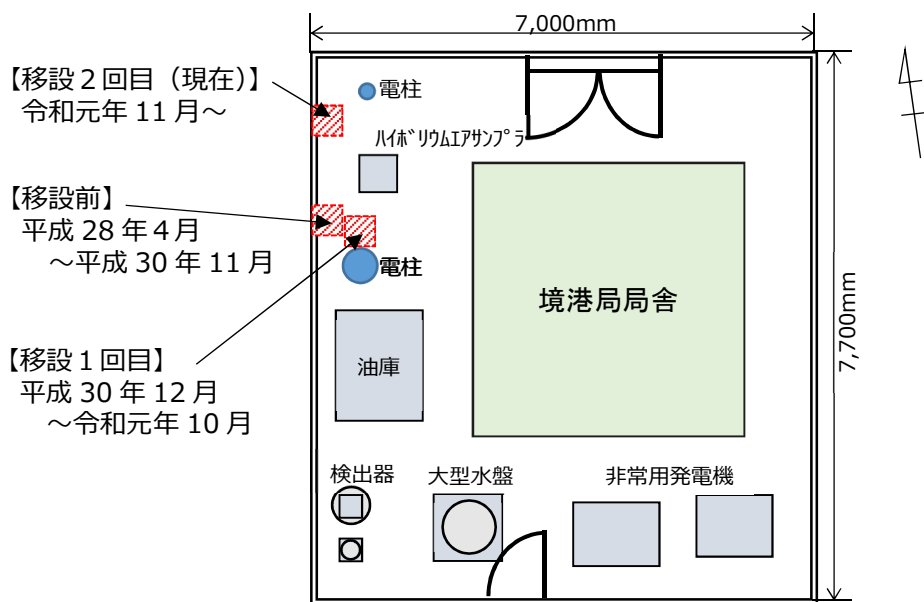


図2 境港局の積算線量計の移設状況

【移設1回目（平成30年12月）】

平成31年1月から3月に実施されたフェンス変更及び非常用発電機設置に係る工事に伴い、図2及び図3に示すとおり、電柱に積算線量計を移設した。

なお、図4に工事後の状況を示すが、フェンス柵は縦型の柵（スチール製）から横型の柵（アルミ製）に変更し、積算線量計を設置した電柱の後ろ側に非常用発電機（油庫）が設置された。



移設前（H28年4月～）



移設後（H30年12月）

図3 積算線量計の移設状況（1回目）



図4 工事後の設置状況（H31年4月）

【移設 2 回目（令和元年 11 月）】

電柱及び非常用発電機による放射線遮へいの影響を考慮して、図 2 及び図 5 に示すとおり、積算線量計をフェンスに移設した。



図 5 積算線量計の設置状況（移設 2 回目、令和元年 11 月）

3 調査結果

以上のことから、令和元年度第 4 四半期の積算線量の測定値の低下は、フェンス変更及び非常用発電機設置に係る工事（平成 31 年 1 月から 3 月）及び積算線量計の移設（平成 30 年 12 月、令和元年 11 月）が影響している可能性もあるが、明確な要因は不明であり、今後の測定結果を注視していく。

4 参考文献

- 1) 蛍光ガラス線量計を用いた積算線量測定（2）－熱ルミネッセンス線量計との比較－：新潟県保健環境科学研究所年報、第 16 巻、2001

資料3

海底土（美保湾）からのCs-137の検出について

1 概要

米子市大篠津町地先（美保湾）の海底土からCs-137を検出したため、検出された濃度について、全国の調査結果との比較を行った。その結果、今回検出された濃度は、全国で検出されたCs-137濃度の範囲内であった。

2 全国の調査結果

原子力規制庁「環境放射能データベース」を利用して、平成19年度～平成22年度及び平成25年度～平成30年度の10年間に、全国で調査された海底土のCs-137濃度について検索した（福島第一原子力発電所事故の影響を考慮して、平成23年度～平成24年度は除外）。

検索の結果、10年間で調査された207試料のうち142試料でCs-137が検出され、0.15～76 Bq/kgの範囲であった。また、Cs-137濃度別に検出された件数を調査したところ、1.0～4.9 Bq/kgの範囲が最も多いことが分かった。（検索結果を図に示す。）

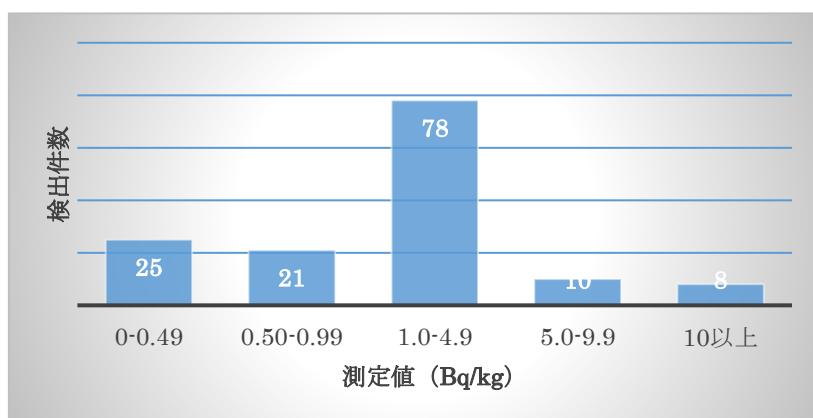


図 全国の海底土から検出されたCs-137濃度別の検出頻度

3 まとめ

美保湾の海底土から検出されたCs-137濃度（0.75 Bq/kg）は、全国の調査結果の範囲内であることが確認できた。また、平成25年度に米子市葭津地先（中海）の海底土で検出されたCs-137濃度（8.0 Bq/kg）についても、全国の調査結果の範囲内であることが確認できた。

海底土から検出されたCs-137は、一般の環境で認められる値であることから、過去の大気圏内の核実験の影響によるものと考えられる。

また、今回初めて美保湾の海底土からCs-137を検出したが、海底土中のCs-137が不均質に分布していることから、Cs-137が検出されたものと推察される。

資料 4

平常の変動幅の設定について

1 概要

現在、島根原子力発電所周辺における平常時モニタリング結果の評価は、これまでの測定結果に加えて、島根県のデータ等の関連資料を参考に評価を行っている。

島根原子力発電所周辺における平常時モニタリングは、平成 24 年度から開始して 7 年経過することから、「平常の変動幅」を設定して、これを外れた場合には、気象要因等の自然条件の変化、原子力施設の稼働状況等を調査して、原因について検討を行う。

また、人形峠環境技術センター周辺における平常時モニタリングの「平常の変動幅」についても、今回の「平常の変動幅」の設定に合わせて見直しを行う。

2 「平常の変動幅」設定の考え方

平常の変動幅については、下記のとおり「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」3－5 平常時モニタリング結果の評価等に示されている。

測定項目	設定の考え方
空間放射線量率 （モニタリングポスト）	過去数年間の測定値の平均値±（3×標準偏差）、 若しくは過去数年間の最小値から最大値までの範囲
大気中の放射性物質濃度 （ろ紙を回収・測定）	過去数年間又は測定開始時からの測定値の最大値を平常の変動幅の上限として設定
大気中の放射性物質濃度 （連続採取及び連続測定）	過去数年間の測定値の平均値＋（3×標準偏差）等を確認開始設定値として設定
環境試料中の放射性物質の濃度	過去数年間又は測定開始時からの測定値の最大値を平常の変動幅の上限として設定

○平常の変動幅等の設定に当たっては

- ・ 過去数年間の測定条件の変化の有無等について確認することが重要である。
※ 過去の最大値から最小値までの範囲を平常の変動幅とする場合は、1つの特異なデータによって平常の変動幅が大きく変わることがある。
- ・ 福島第一原子力発電所事故等の影響を受けている地域は、その期間のデータの取扱いを考慮する必要がある。
- ・ 平常時の変動幅等については、平常時モニタリング計画の更新等に合わせて、定期的に見直すことが重要である。

（参考）島根県及び岡山県の「平常の変動幅」の設定状況

測定項目	平常の変動幅	
	島根県	岡山県
空間放射線量率 【モニタリングポスト】	前年度までの 2 年間以上（5 年間を上限とする）の全データから求めた累積相対度数分布（平均値±3×標準偏差）相当の範囲	直近 10 年間の最小値から最大値までの範囲
空間放射線量率 【積算線量】	前年度までの 5 年間の最小値から最大値までの範囲	直近 10 年間の最小値から最大値までの範囲
大気中の放射性物質濃度 【浮遊じん：集塵フィルタ】	前年度までの 10 年間の最大値から最小値までの範囲 ※H23, 24 を除く 10 年間を対象	測定なし

大気中の放射性物質濃度 【連続採取及び連続測定： 浮遊じん：全 α 、全 β 、 大気：ふっ素※岡山のみ】	設定なし	設定なし ※但し、全 α 、全 β 、ふっ素は、過 去5年間の測定範囲(最大値から最 小値)を示している。
環境試料中の放射性物質の 濃度	前年度までの10年間の最大 値から最小値までの範囲 ※H23, 24を除く10年間を対象	直近10年間の最小値から最大 値までの範囲

3 「平常の変動幅」設定値

島根原子力発電所周辺及び人形峠環境技術センター周辺における平常時モニタリングの「平常の変動幅」については、上記補足参考資料に準拠するとともに、島根県・岡山県の設定状況、測定値の数等を考慮した上で、これまでの人形峠環境技術センター周辺における平常の変動幅の設定の考え方を基本に、下記のとおり過去数年間の測定値の最小値から最大値の範囲とする。

ただし、島根原子力発電所周辺の「平常の変動幅」の設定において、平成23年度及び24年度の測定値は、福島第一原子力発電所における事故の影響を受けていることが否定できないことから、当該年度の測定値を除外する。

なお、「平常の変動幅」は、年度毎に見直しすることとする。

測定項目 【対象試料】	平常の変動幅の設定	
	平常の変動幅	考え方
空間放射線量率 【固定局（連続測定）】	前年度までの5年間の最小値 から最大値までの範囲	補足参考資料に準拠
空間放射線量率 【モニ車（四半期毎）】	前年度までの10年間の最小 値から最大値までの範囲	補足参考資料に準拠
空間放射線量率 【積算線量（四半期毎）】	前年度までの10年間の最小 値から最大値までの範囲	島根県を参考
大気中の放射性物質濃度 【固定局（連続測定）：全 α 、 全 β 、ふっ素】	前年度までの5年間の最小値 から最大値までの範囲	補足参考資料及び岡山県を 参考
大気中の放射性物質濃度 【モニ車（四半期毎）：浮遊 じん（全 α 、全 β ）】	前年度までの10年間の最小 値から最大値までの範囲	補足参考資料に準拠
環境試料中の放射性物質の 濃度 【浮遊じん、降水物、陸水、 陸土、海底土、海水、植物、 農産物、海産物】	前年度までの10年間の最大 値から最小値までの範囲	補足参考資料に準拠

環境試料の変動幅超過について【人形峠】

1 概要

人形峠環境技術センター周辺における平常時モニタリングにおいて、次のとおり環境試料が平常の変動幅を超過したが、いずれも人形峠環境技術センターからの放射性物質の放出によるものではなく、栽培場所の違いによるもの、または自然のばらつきによるものと推察された。

2 測定結果及び原因の考察

(1) 玉ねぎ（小河内）

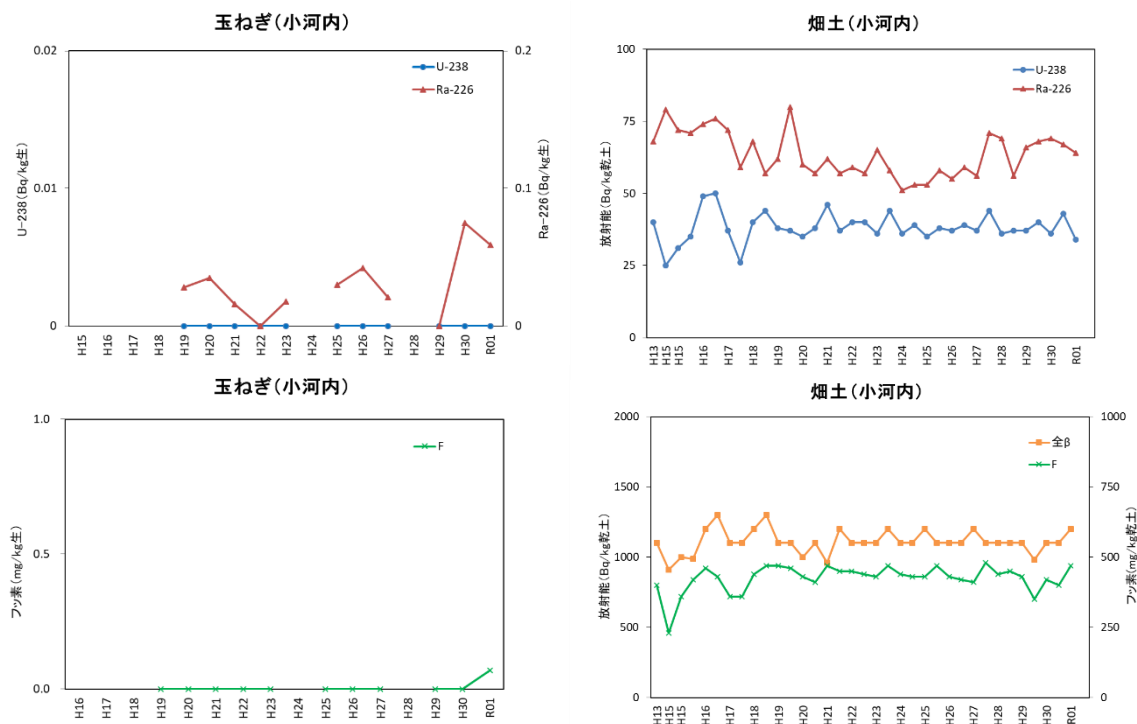
ア 測定結果

試料名	地点	項目	採取日	結果	平常の変動幅	単位
玉ねぎ	小河内	フッ素	R01. 07. 02	<u>0.07</u>	ND	mg/kg 生

イ 原因の考察

- ・事業場内及び周辺のモニタリングポスト等は、H31. 4 から試料採取までの間、異常値の検出はなかった。
- ・人形峠環境技術センターに確認したところ、H31. 4 から試料採取までの間、通常と異なる作業の実施はなく、場内の排気モニタ、エリアモニタともに異常値の検出はなかった。
- ・採取業者に確認したところ、今回の試料はこれまでと同じ農家から提供されたものであったが、これまでとは異なる畑（これまでの畑との距離：約 70m）で栽培されたものであった。
- ・小河内の畑土の調査結果は、いずれの項目も平常の変動幅の範囲内であった。
- ・過年度における小河内の野菜から検出されたフッ素濃度は、いも類 ND~0. 2mg/kg 生、大根 ND~0. 1 mg/kg 生であり、今回玉ねぎから検出されたフッ素濃度はこれらの数値以下であり、異常な数値ではないと考えられる。

以上のことから、人形峠環境技術センターに起因するものではなく、栽培場所の違いがフッ素の検出の要因になったと考えられた。



(2) 飲料水 (穴鴨)

ア 測定結果

試料名	地点	項目	採取日	結果	平常の変動幅	単位
飲料水	穴鴨	U-238	R02.01.08	<u>0.91</u>	ND~0.89	mBq/L

イ 原因の考察

- ・事業場内及び周辺のモニタリングポスト等は、H31.4 から試料採取までの間、異常値の検出はなかった。
- ・人形峠環境技術センターに確認したところ、H31.4 から試料採取までの間、通常と異なる作業の実施はなく、場内の排気モニタ、エリアモニタともに異常値の検出はなかった。
- ・試料採取当日に降水があった（三朝町穴鴨 13.0mm/日）が、試料採取時に水の濁り等の異常はなかった（採取業務報告書）。
- ・分析及び測定工程においても通常と異なることはなかった（分析業務報告書）。
- ・今回の平常の変動幅の上限となった測定結果について誤差を含めて表記すると次のとおりであり、同レベルと考えられた。

	採取日	結果	単位
今回	R02.01.08	0.91±0.18	mBq/L
平常の変動幅の上限	H20.01.15	0.89±0.18	

以上のことから、人形峠環境技術センターからの放射性物質の放出ではなく、自然のばらつきによるものと推察される。

資料 6

原子力環境センターでのウラン及びフッ素の測定の検討について

1 概要

人形峠周辺地域における環境試料分析については、(公財)日本分析センターに陸水のウラン及びフッ素分析を委託しているところであるが、原子力環境センターに測定装置を整備したことから、原子力環境センターでの分析を念頭に、今年度は陸水のウラン及びフッ素について並行測定を行った。その結果、U-238、フッ素ともに強い相関があり、両者の測定結果が良く一致していることを確認した。

2 測定方法

陸水及び大気試料のウラン及びフッ素分析方法について、下表に(公財)日本分析センターと原子力環境センターとの比較を示す。

なお、大気試料のフッ素については、試料採取及び分析に係る条件設定等に時間を要したため、今年度は測定していない。

項目		日本分析センター	原子力環境センター
ウラン (陸水)	測定法	測定法シリーズ 14「ウラン分析法」に基づく α 線スペクトロメトリー	測定法シリーズ 14「ウラン分析法」に基づく ICP 質量分析法
	測定機器	シリコン半導体検出器 ORTEC 製 BU-020-450-AS	ICP-MS パナキエルマージャパン製 NexION1000
	測定項目	U-238、U-235、U-234 ※	U-238
フッ素 (陸水)	分析法	JIS-K0102「工場排水試験法」に基づくイオン電極法	JIS-K0102「工場排水試験法」に基づくイオンクロマトグラフ法
	測定機器	イオンメーター 村田製 4STAR	イオンクロマトグラフ サーモフィッシャーサイエンティフィック製 DionexIntergrionRFIC
	測定項目	F	F ⁻
フッ素 (大気)	測定法	並行測定なし	JIS-K0105「排ガス中のふっ素化合物分析法」に基づくイオンクロマトグラフ法
	測定機器		イオンクロマトグラフ 同上
	測定項目		F ⁻

※ モニタリング結果として評価しているのは U-238 のみ

3 測定結果

(1) 河川水

採取地点	採取年月日	U-238 (mBq/L)		フッ素 (mg/L)	
		分析セ	原環セ	分析セ	原環セ
栗祖	R01.07.02	0.83	1.1	0.03	0.03
	R01.11.06	1.5	1.6	0.03	0.03
	R02.01.08	0.87	1.2	0.03	0.02
加谷	R01.07.02	<0.28	0.22	0.03	0.04
	R01.11.06	<0.31	ND	0.04	0.03
	R02.01.08	<0.36	0.29	0.04	0.03
穴鴨	R01.07.02	<0.28	0.17	0.04	0.03
	R01.11.06	<0.28	ND	0.04	0.04
	R02.01.08	<0.37	0.25	0.04	0.03
小河内	R01.07.02	0.50	0.40	0.04	0.04
	R01.11.06	0.54	0.27	0.04	0.04
	R02.01.08	0.58	0.63	0.04	0.03

(2) 飲料水

採取地点	採取年月日	U-238 (mBq/L)		フッ素 (mg/L)	
		分析セ	原環セ	分析セ	原環セ
栗祖	R01.07.02	<0.28	ND	0.03	0.03
	R01.08.07	<0.23	ND	0.05	0.03
	R01.11.06	<0.39	ND	0.03	0.03
	R02.01.08	<0.31	0.059	0.04	0.03
加谷	R01.07.02	<0.28	ND	0.06	0.05
	R01.08.07	<0.28	ND	0.06	0.05
	R01.11.06	<0.30	ND	0.05	0.05
	R02.01.08	<0.33	0.051	0.05	0.05
穴鴨	R01.07.02	0.29	0.46	0.04	0.05
	R01.08.07	0.54	0.49	0.05	0.05
	R01.11.06	0.52	0.39	0.05	0.05
	R02.01.08	0.91	0.50	0.06	0.05
小河内	R01.07.02	2.6	3.1	0.05	0.06
	R01.08.07	3.0	3.2	0.06	0.06
	R01.11.06	3.4	3.1	0.06	0.06
	R02.01.08	3.0	3.3	0.06	0.06

4 検討結果

日本分析センターと原子力環境センターの測定結果の比較を下図に示すが、図のとおり、U-238、フッ素ともに強い相関が認められた。

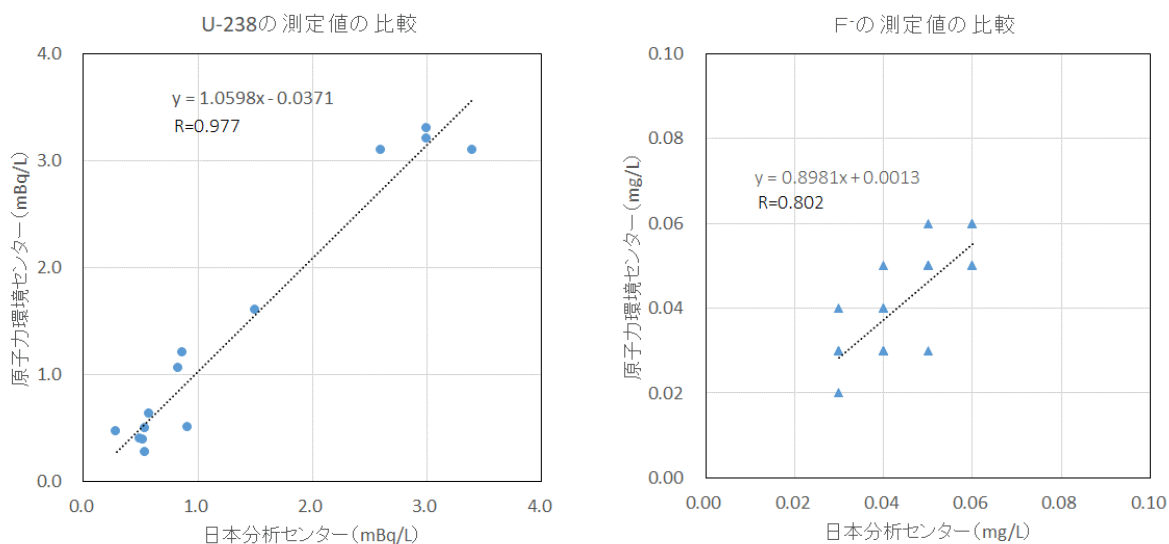


図 日本分析センターと原子力環境センターとの測定結果の比較 (ND 除く)

5 今後の予定

今後は、測定結果比較の精度向上のためデータ蓄積を図り、継続して並行測定を行う。

【IV 参考資料】

1 人形峠周辺調査における環境試料の経年変化

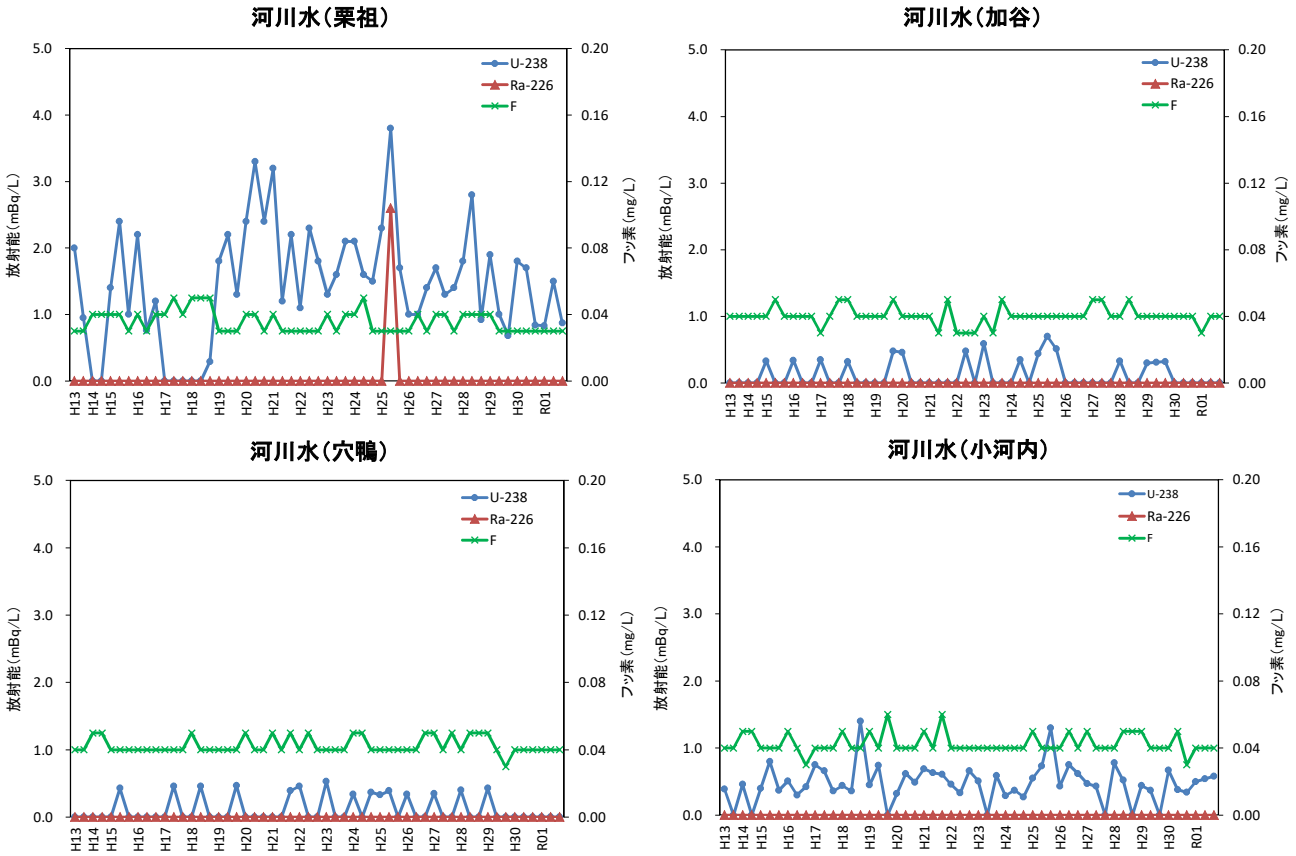


図1-1 経年変化(河川水)

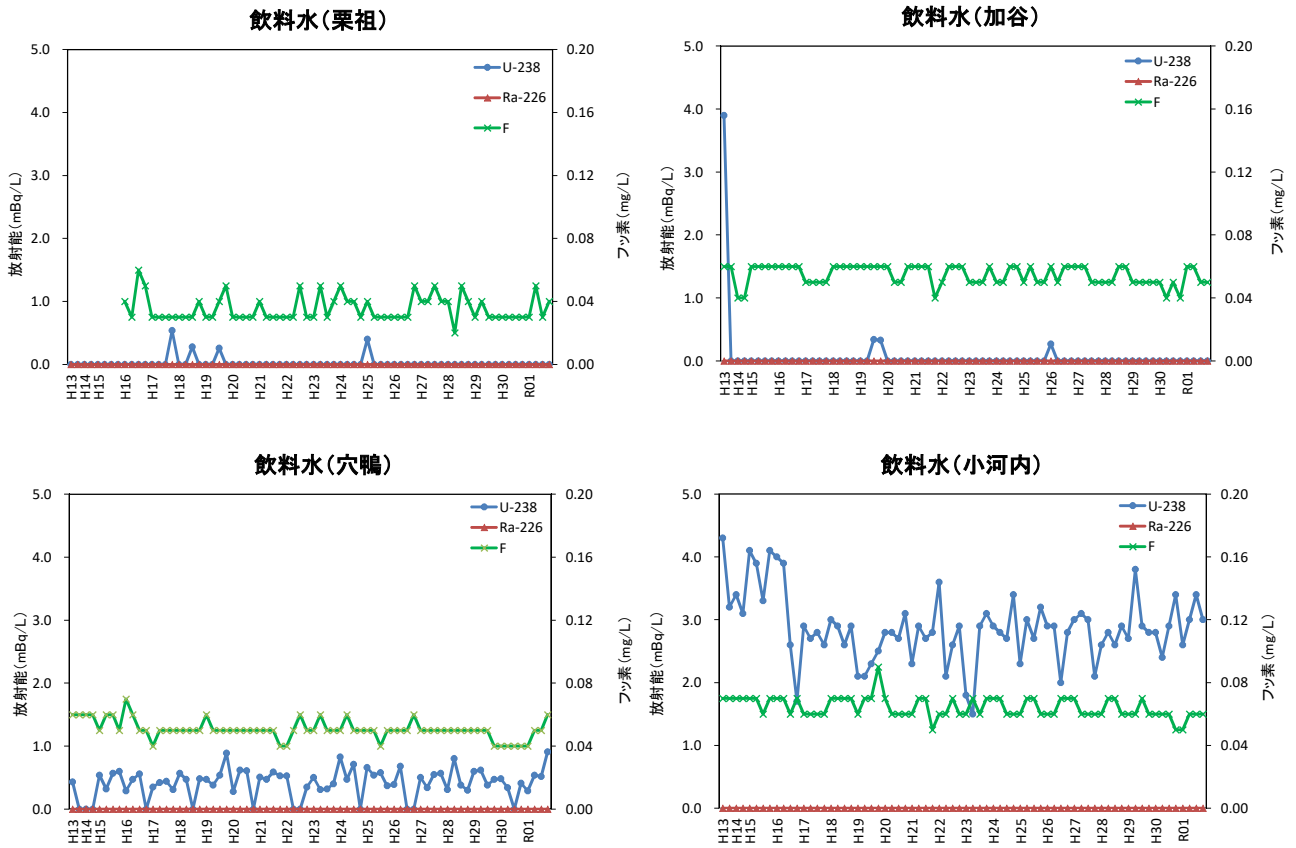


図1-2 経年変化(飲料水)

注: いずれも、NDは0としてプロットとした。

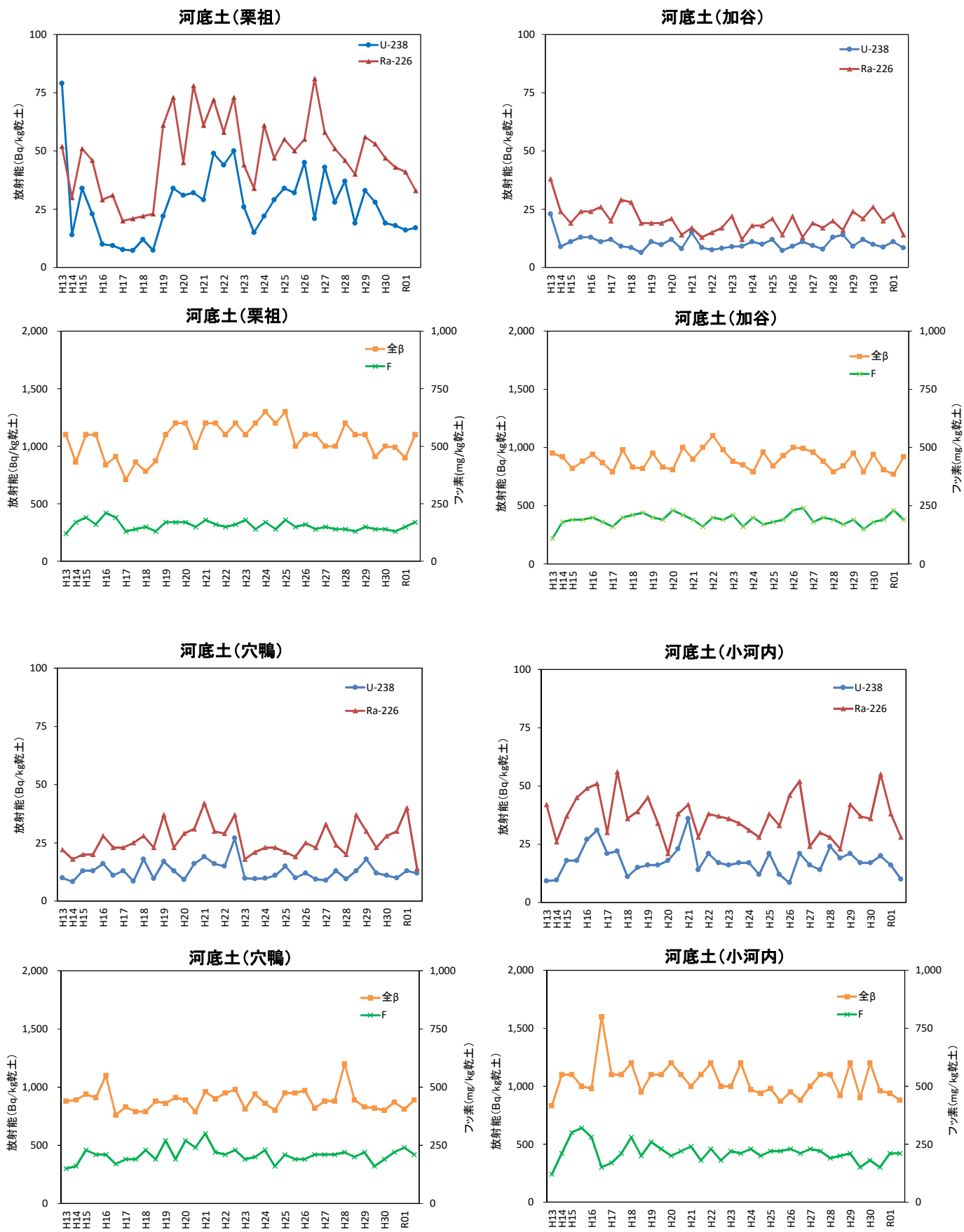


图1-3 経年変化(河底土)

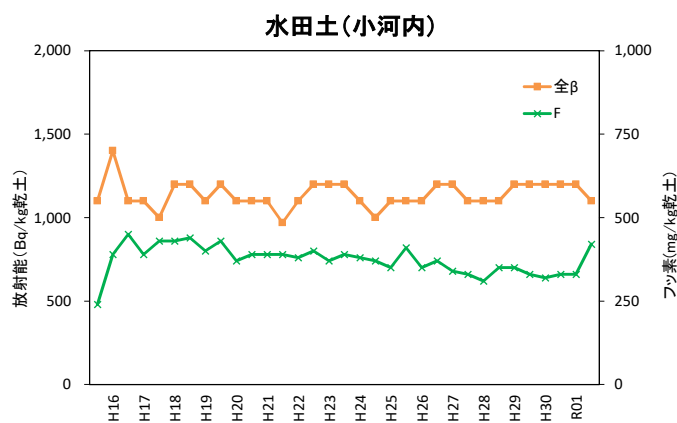
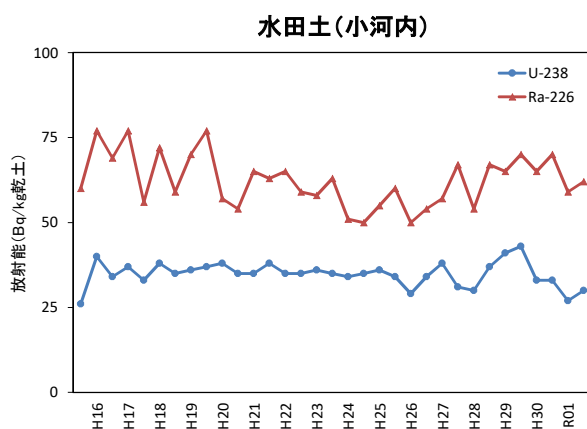
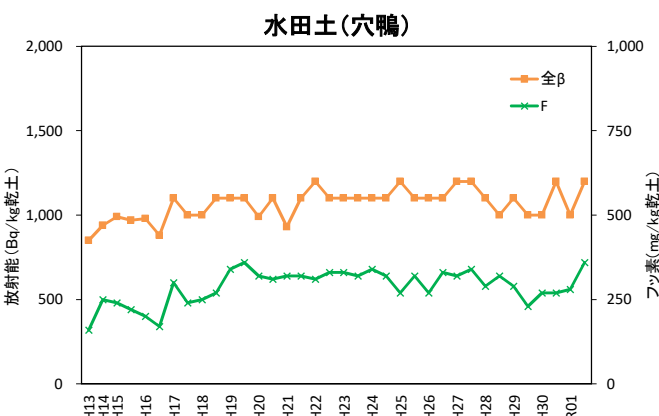
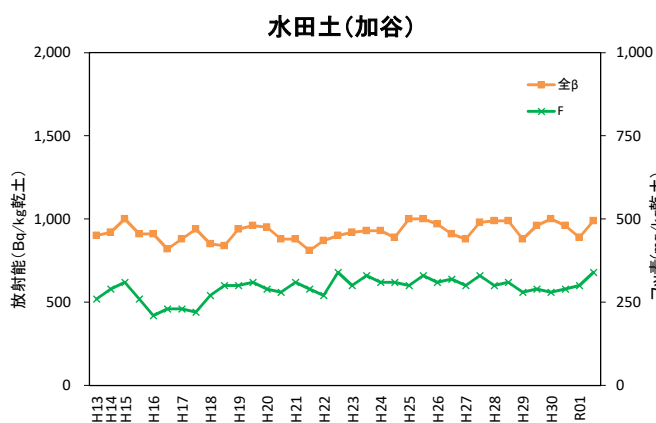
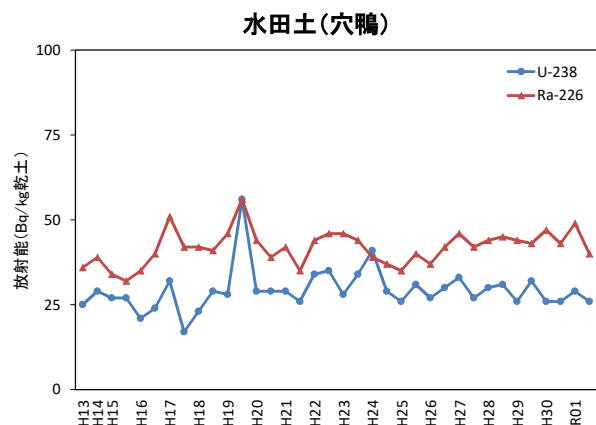
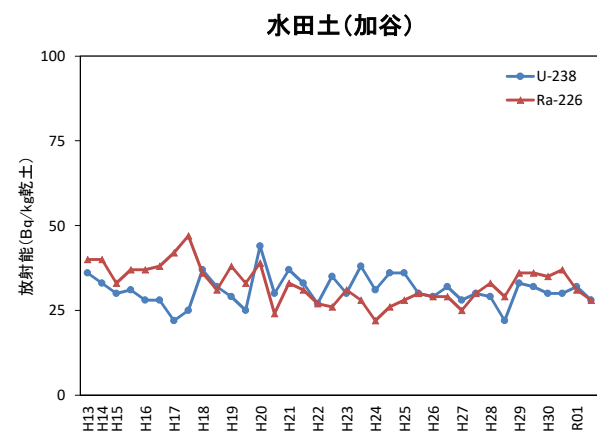


図1-4 経年変化(水田土)

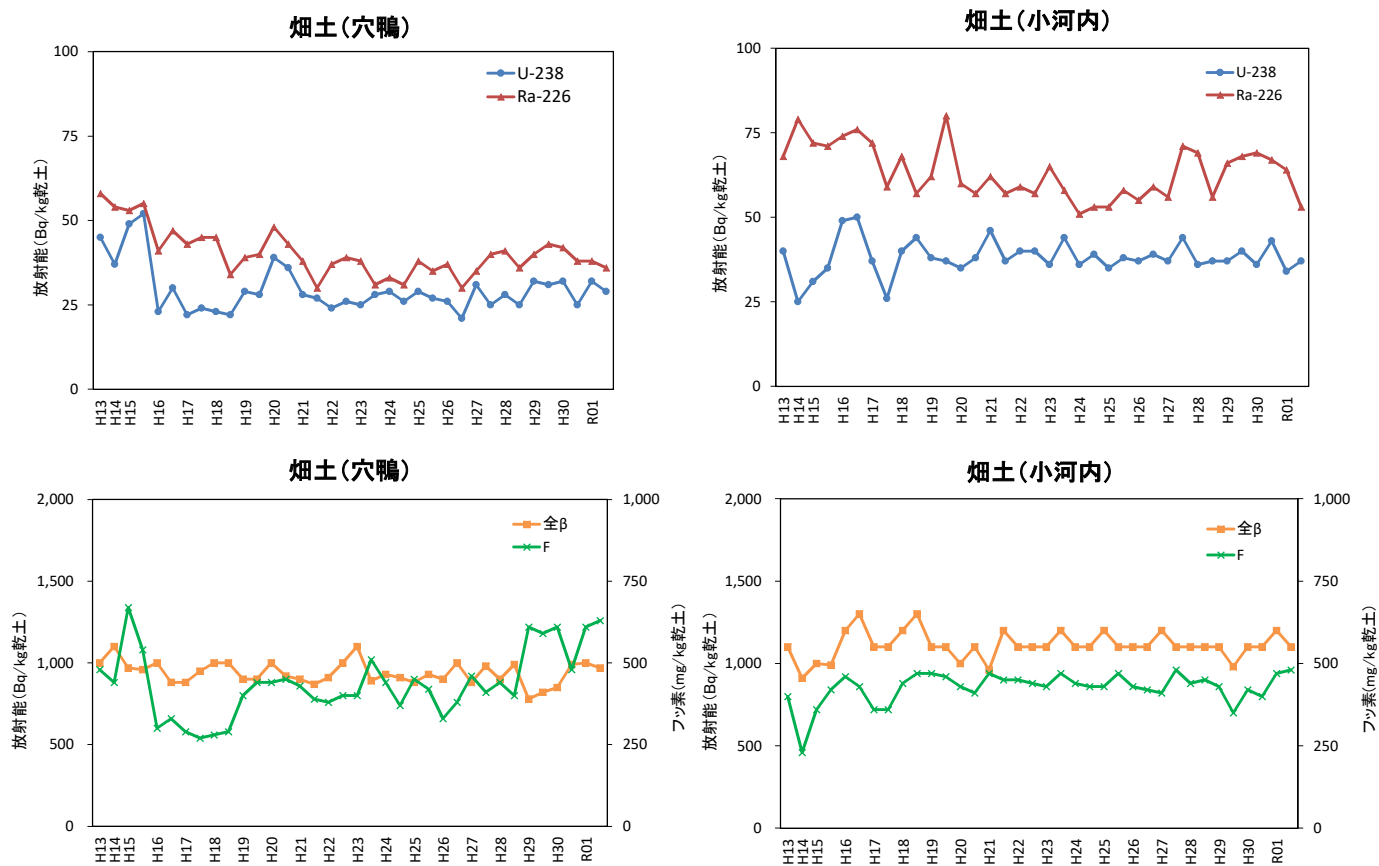


図1-5 経年変化(畑土)

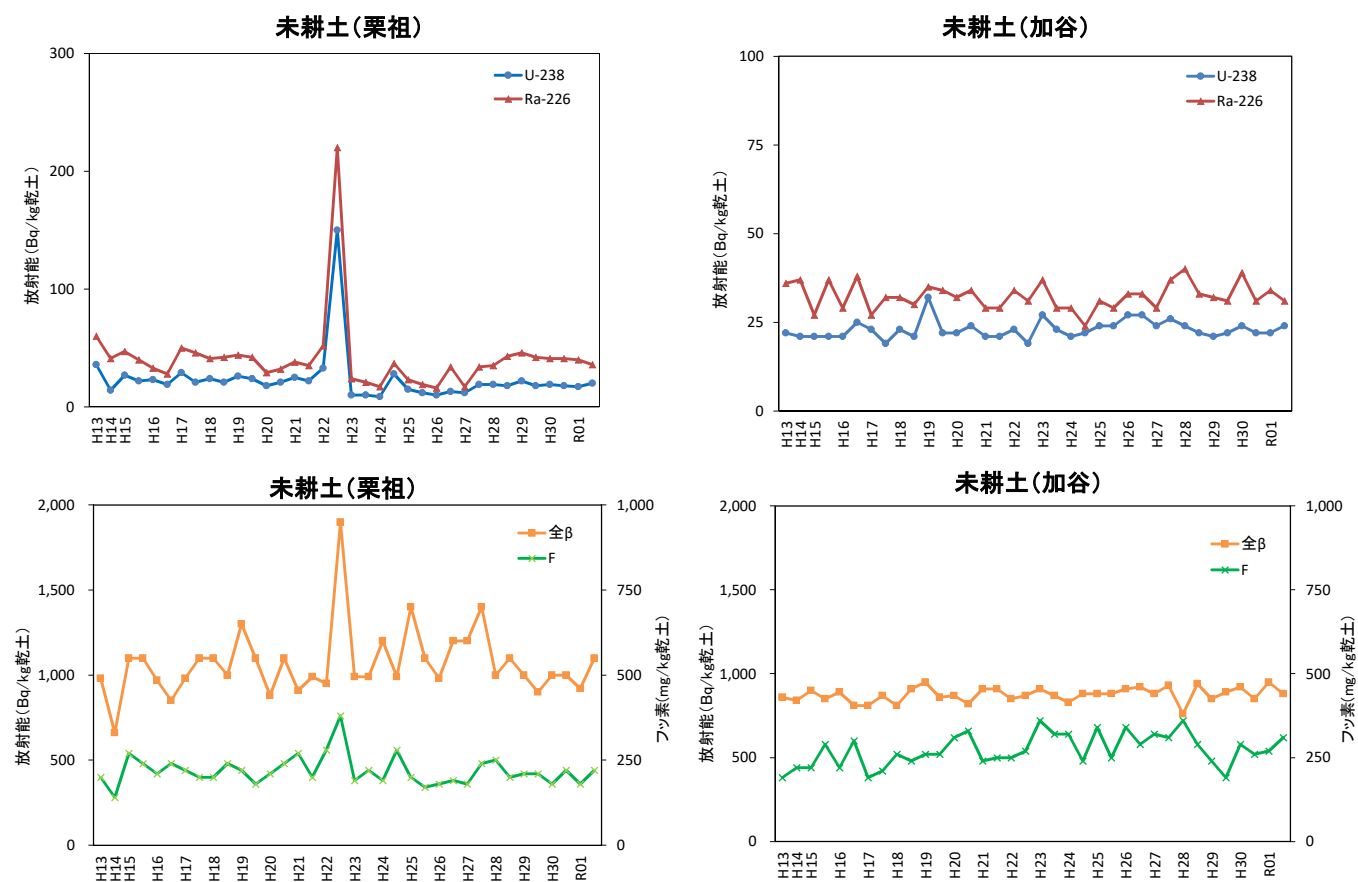


図1-6 経年変化(未耕地)

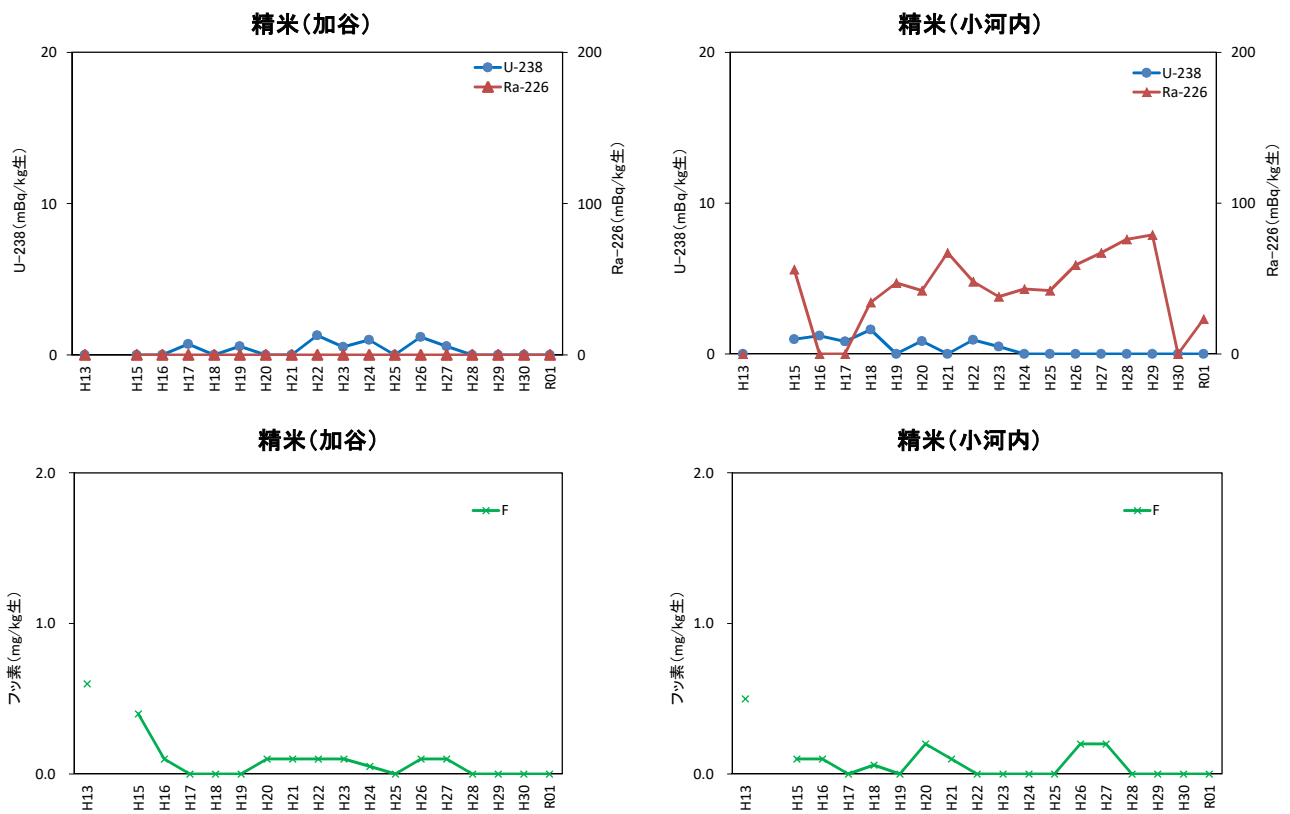


図1-7 経年変化(精米)

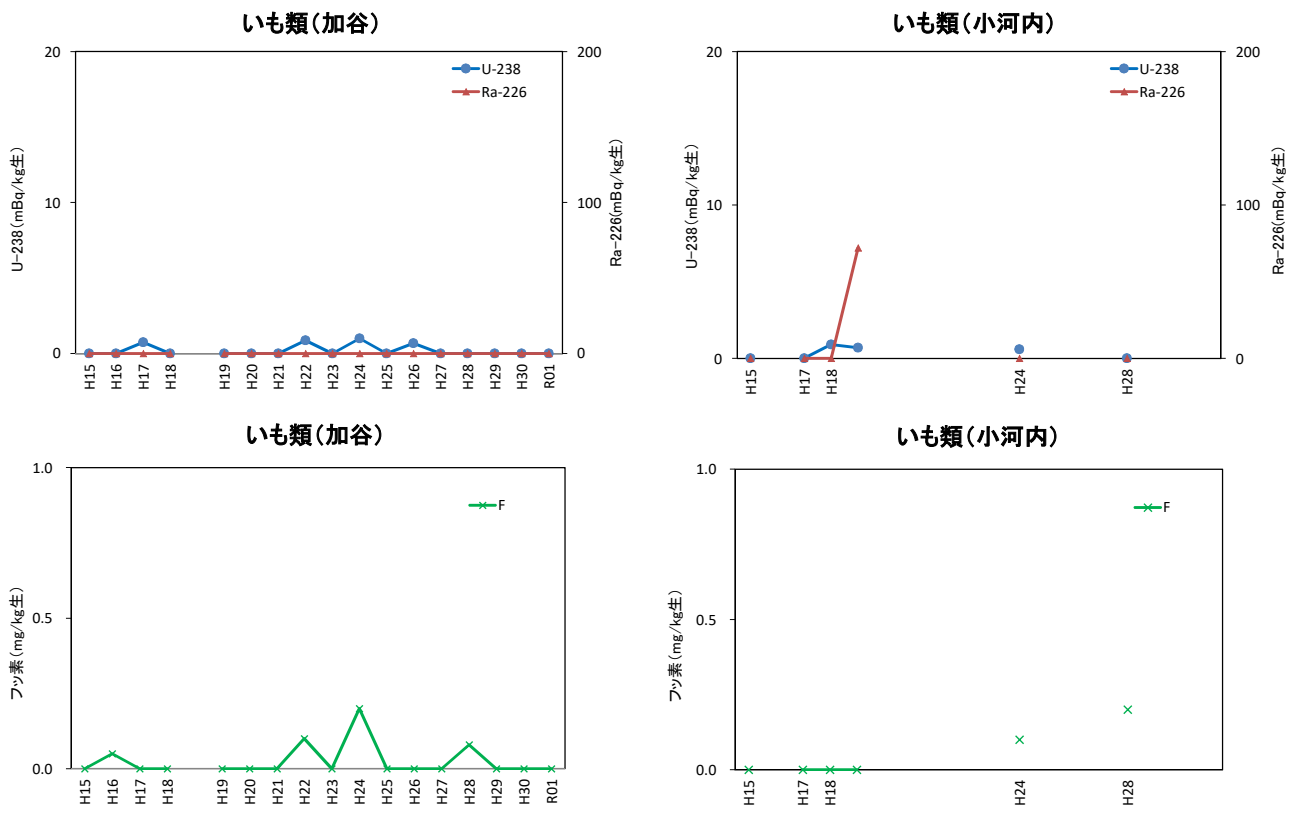


図1-8 経年変化(いも類)

注: いずれも、NDIは0としてプロットした。

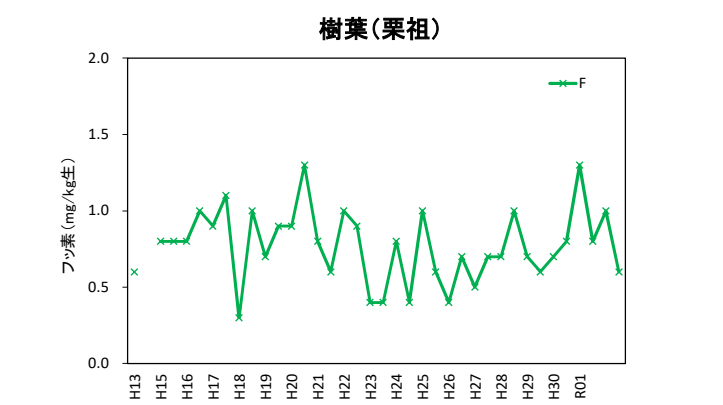
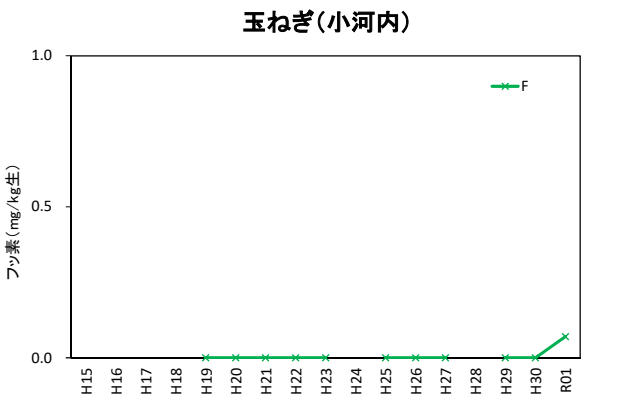
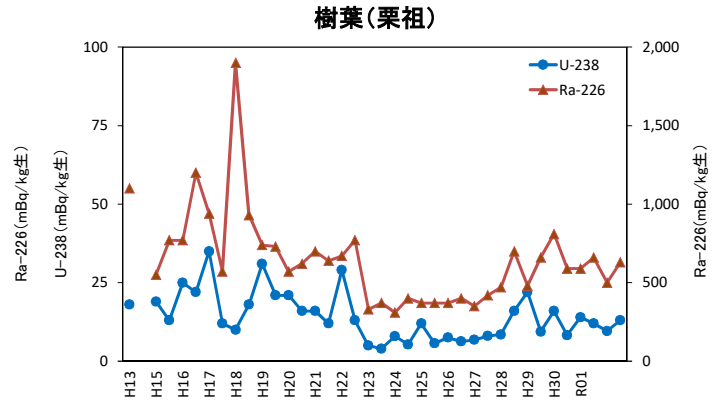
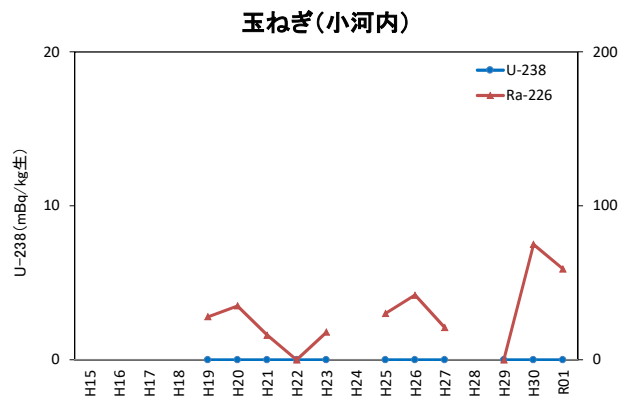


図1-9 経年変化(玉ねぎ)

図1-10 経年変化(樹葉)

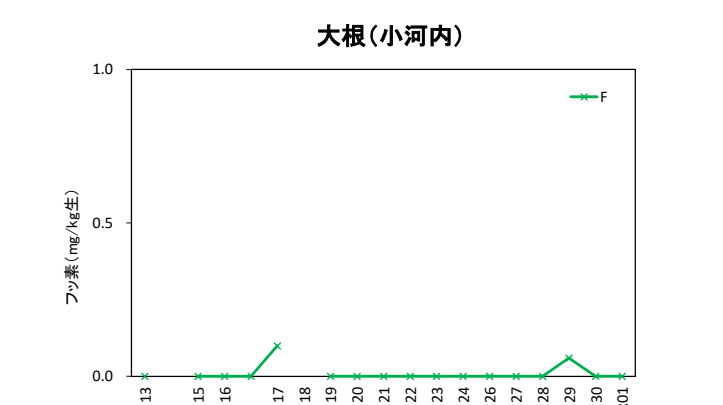
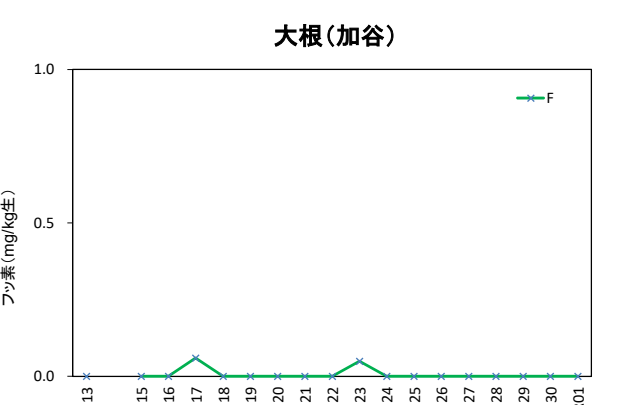
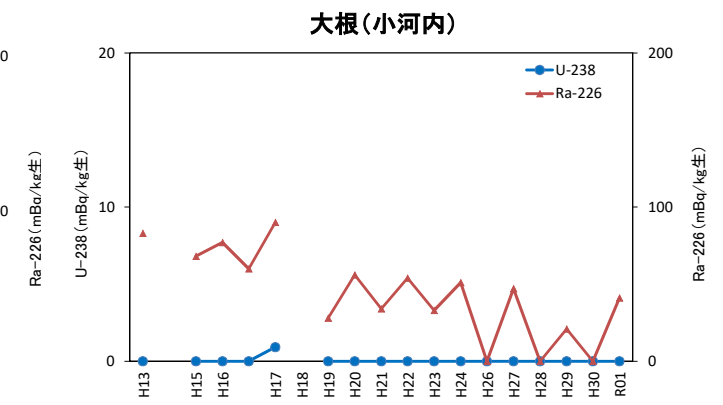
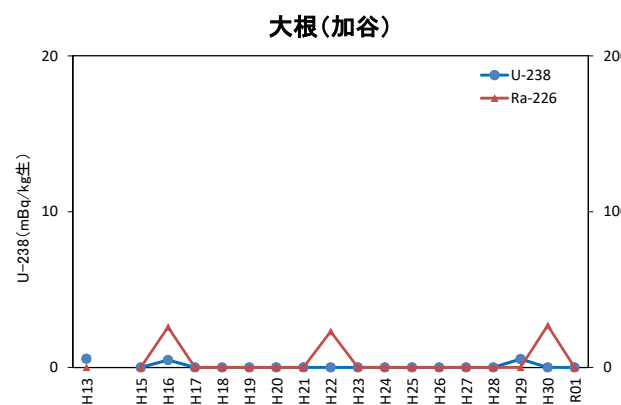


図1-11 経年変化(大根)

注 いずれも、NDは0としてプロットした。

2 環境試料の測定結果に基づく預託実効線量(成人)

島根原子力発電所周辺の平常時モニタリングにおいて、環境試料から検出されたCs-137、H-3、Sr-90の測定結果を基に、「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料、平成30年4月、原子力規制庁監視情報課）」等に準じて、吸入摂取及び経口摂取した場合の内部被ばくによる預託実効線量を推定した結果を下表に示す。

(単位：μSv/年)

試料区分	1日当たりの摂取量	Cs-137			H-3			Sr-90			備考
		濃度(平均)	単位	実効線量	濃度(平均)	単位	実効線量	濃度(平均)	単位	実効線量	
浮遊じん	22.2 m ³	—	mBq/m ³	—							
水道水	2.65 L	—	Bq/L	—	—	Bq/L	—				
葉菜	0.1 kg	—	Bq/kg生	—				0.01	Bq/kg生	0.01	
精米	0.3 kg	0.21	Bq/kg生	0.30							
魚	0.2 kg	0.16	Bq/kg生	0.15							
無脊椎動物	0.02 kg	—	Bq/kg生	—				—	Bq/kg生	—	
海藻類	0.04 kg	—	Bq/kg生	—							

注1 濃度は、測定値の平均値（検出下限値未満（ND）がある場合はNDを除外した平均値）であり、「—」は全ての試料がNDであったことを示す。この場合、実効線量欄にも「—」を記した。網掛け欄は分析対象外。

注2 上記以外の分析対象核種（Mn-54, Fe-59, Co-58, Co-60, I-131）は、検出されなかった。

注3 1日あたりの摂取量及び実効線量の計算における係数は、「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）（平成30年4月、原子力規制庁監視情報課）」に準拠した。

なお、市場希釈、調理等に伴うロスなどによる補正は行わなかった。また、精米の1日あたりの摂取量は、「平成30年度 島根原子力発電所周辺環境放射線等調査結果（令和元年8月、島根県）」に記載された島根県の実験値を使用した。

注4 発電用軽水炉型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針では、発電用原子炉施設が通常運転時に環境に放出する放射性物質によって施設周辺の公衆の受ける線量目標値は実効線量で年間50μSvとされている。また、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則に定める周辺監視区域外の年線量限度は1mSvである。

3 環境放射能の検出下限値

(1) 環境試料中の放射性核種分析（ガンマ線スペクトロメトリー）

ア 大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

採取地点	採取期間	対象核種別検出下限値				
		Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	Cs-137
境 港 局	4月1日～4月30日	0.006	0.014	0.007	0.006	0.006
	5月1日～5月31日	0.010	0.041	0.020	0.008	0.009
	6月1日～6月30日	0.006	0.023	0.008	0.006	0.006
	7月1日～7月31日	0.007	0.023	0.010	0.007	0.006
	8月1日～9月1日	0.006	0.015	0.007	0.006	0.006
	9月1日～10月1日	0.006	0.018	0.009	0.006	0.006
	10月1日～11月1日	0.006	0.013	0.006	0.006	0.005
	11月1日～12月1日	0.006	0.022	0.010	0.006	0.005
	12月1日～1月1日	0.007	0.016	0.007	0.006	0.005
	1月1日～2月1日	0.007	0.032	0.012	0.007	0.006
	2月1日～3月1日	0.006	0.037	0.009	0.006	0.006
	3月1日～4月1日	0.006	0.019	0.009	0.006	0.006
米 子 局	4月1日～4月30日	0.006	0.014	0.006	0.006	0.006
	5月1日～5月31日	0.006	0.023	0.009	0.006	0.005
	6月1日～6月30日	0.007	0.022	0.009	0.007	0.007
	7月1日～7月31日	0.006	0.022	0.009	0.006	0.005
	8月1日～9月1日	0.006	0.014	0.006	0.006	0.005
	9月1日～10月1日	0.006	0.020	0.008	0.006	0.006
	10月1日～11月1日	0.006	0.013	0.006	0.006	0.005
	11月1日～12月1日	0.009	0.026	0.010	0.006	0.006
	12月1日～1月1日	0.006	0.014	0.007	0.006	0.005
	1月1日～2月1日	0.007	0.029	0.010	0.006	0.006
	2月1日～3月1日	0.007	0.022	0.009	0.007	0.006
	3月1日～4月1日	0.007	0.019	0.008	0.006	0.006

(1) 環境試料中の放射性核種分析 (ガンマ線スペクトロメトリー)

イ 降下物

(単位:MBq/km²)

採取地点	採取期間	対象核種別検出下限値				
		Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	Cs-137
境 港 局	4月2日～4月26日	0.060	0.130	0.064	0.064	0.061
	4月26日～6月3日	0.058	0.110	0.057	0.068	0.062
	6月3日～7月2日	0.056	0.098	0.058	0.061	0.053
	7月2日～8月1日	0.048	0.110	0.059	0.062	0.051
	8月1日～9月3日	0.054	0.100	0.072	0.060	0.051
	9月3日～10月1日	0.055	0.100	0.058	0.060	0.052
	10月1日～11月1日	0.057	0.110	0.057	0.062	0.062
	11月1日～12月2日	0.050	0.100	0.057	0.061	0.052
	12月2日～1月7日	0.063	0.096	0.056	0.056	0.051
	1月7日～2月3日	0.049	0.095	0.053	0.061	0.054
	2月3日～3月2日	0.051	0.100	0.053	0.056	0.052
	3月2日～4月2日	0.057	0.110	0.058	0.064	0.057
米 子 局	4月2日～4月26日	0.059	0.13	0.062	0.064	0.056
	4月26日～6月3日	0.060	0.11	0.061	0.069	0.062
	6月3日～7月2日	0.070	0.14	0.071	0.077	0.068
	7月2日～8月1日	0.053	0.13	0.055	0.065	0.053
	8月1日～9月3日	0.054	0.099	0.057	0.061	0.052
	9月3日～10月1日	0.054	0.092	0.048	0.059	0.052
	10月1日～11月1日	0.057	0.11	0.057	0.062	0.062
	11月1日～12月2日	0.053	0.11	0.057	0.066	0.053
	12月2日～1月7日	0.052	0.10	0.061	0.063	0.052
	1月7日～2月3日	0.086	0.15	0.088	0.084	0.093
	2月3日～3月2日	0.053	0.095	0.054	0.056	0.052
	3月2日～4月2日	0.084	0.17	0.090	0.086	0.087

(1) 環境試料中の放射性核種分析 (ガンマ線スペクトロメトリー)

ウ 陸水

(単位:mBq/L)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値						
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137	
陸水	水道水	蛇口水	境港市上道町	R01.05.14	0.34	0.77	0.38	0.38		0.33	
				R01.11.07	0.38	0.89	0.41	0.40		0.37	
			米子市河崎	R01.05.14	0.45	0.85	0.44	0.46		0.41	
				R01.11.07	0.40	0.92	0.42	0.42		0.35	
		原水	米子市福市(米子市水道局福市着水井)	R01.05.14	0.35	0.93	0.35	0.38		0.32	
				R01.11.07	0.42	0.45	0.46	0.42		0.56	
		池水	表層水	境港市小篠津町	R01.11.07	0.41	1.1	0.40	0.46		0.37

エ 植物

(単位:Bq/kg生)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値					
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137
植物	松葉	二年葉	境港市幸神町	R01.10.15	0.049	0.11	0.048	0.051	0.21	0.048
			米子市夜見町	R01.10.15	0.046	0.16	0.044	0.045	0.19	0.042

オ 陸土

(単位:Bq/kg乾土)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値					
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137
陸土	陸土	表層(0~5cm)	境港市馬場崎町	R01.07.22	1.2	2.3	1.2	1.1		1.3
			米子市河崎	R01.07.22	0.85	1.7	0.84	1.0		0.87
		下層(5~20cm)	境港市馬場崎町	R01.07.22	0.98	1.8	0.78	0.96		0.89
			米子市河崎	R01.07.22	1.3	2.5	1.2	1.3		1.4

(1) 環境試料中の放射性核種分析 (ガンマ線スペクトロメトリー)

カ 海水

(単位:mBq/L)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値					
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137
海水	海水	表層水	米子市葭津地先(中海)	R01.04.22	1.5	3.5	1.4	1.7	/	1.5
				R01.10.23	1.6	2.8	1.4	1.5	/	1.5
			米子市大篠津町地先(美保湾)	R01.05.27	1.3	2.5	1.3	1.4	/	1.2
				R01.11.13	1.3	2.4	1.3	1.4	/	1.3

キ 海底土

(単位:Bq/kg乾土)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値					
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137
海底土	海底土	表層底質	米子市葭津地先(中海)	R01.10.23	0.91	1.9	0.88	0.85	/	0.88
			米子市大篠津町地先(美保湾)	R01.11.13	1.3	2.6	1.3	1.3	/	1.2

ク 農産物

(単位:Bq/kg生)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値					
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137
農産物	米	精米	米子市夜見町	R01.10.25	0.060	0.11	0.060	0.060	0.10	0.065
	白ネギ	可食部	境港市中海干拓地	R01.12.02	0.021	0.055	0.024	0.025	0.15	0.038
	大根	葉	境港市中海干拓地	R01.12.09	0.027	0.088	0.029	0.030	0.23	0.027
		根可食部		R01.12.09	0.017	0.048	0.018	0.022	0.092	0.015

(1) 環境試料中の放射性核種分析（ガンマ線スペクトロメトリー）

ケ 牛乳

(単位:mBq/L)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値					
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137
牛乳	原乳		米子市和田町	R01.05.16	60	120	61	70	79	61
				R01.08.06	57	120	57	65	81	63
				R01.11.06	67	130	65	65	99	74
				R02.01.21	58	120	56	67	84	62

コ 海産物

(単位:Bq/kg生)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	対象核種別検出下限値					
					Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131	Cs-137
海産物	ワカメ	—	境港市近海	R01.04.02	0.054	0.14	0.056	0.066	0.13	0.050
	イワガキ	身		R01.07.10	0.054	0.14	0.054	0.059	/	0.051
	セイゴ	身		R01.11.22	0.038	0.10	0.058	0.064	/	0.039
	ナマコ	身		R02.03.09	0.023	0.052	0.023	0.030	/	0.026

(2) トリチウムの検出下限値

(単位:Bq/L)

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	検出下限値
陸水	水道水	蛇口水	境港市上道町	R01.05.14	0.42
			米子市河崎	R01.05.14	0.42
		原水	米子市福市(米子市水道局福市着水井)	R01.05.14	0.42
	池水	表層水	境港市小篠津町	R01.11.07	0.44
海水	海水	表層水	米子市葭津地先(中海)	R01.10.23	0.44
			米子市大篠津町地先(美保湾)	R01.11.13	0.44

(3) ストロンチウム90の検出下限値

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	検出下限値	単位
陸土	陸土	表層 (0~5cm)	境港市馬場崎町	R01.07.22	0.24	Bq/kg乾土
			米子市河崎	R01.07.22	0.26	
		下層 (5~20cm)	境港市馬場崎町	R01.07.22	0.26	
			米子市河崎	R01.07.22	0.23	
農産物	白ネギ	可食部	境港市中海干拓地	R01.12.02	0.010	Bq/kg生
海産物	ワカメ		境港市近海	R01.04.02	0.030	
	イワガキ	身	境港市近海	R01.07.10	0.026	

(4) プルトニウムの検出下限値

区分	試料名	部位	採取地点	採取年月日	検出下限値		単位
					Pu-238	Pu-239+240	
陸土	陸土	表層 (0~5cm)	境港市馬場崎町	R01.08.09	0.010	0.0096	Bq/kg乾土
			米子市河崎	R01.08.09	0.014	0.014	
		下層 (5~20cm)	境港市馬場崎町	R01.08.09	0.011	0.011	
			米子市河崎	R01.08.09	0.014	0.013	

4 気象測定結果

(1) 島根原子力発電所周辺

表 4-1 風速、気温、湿度、降水量（境港局、R01 年度）

測定月	風速 (m/s)		気温 (°C)			湿度 (%)		降水量 (mm)
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最低値	平均値	
4月	7.2	2.3	29.0	1.6	13.3	21	72	91.5
5月	6.5	2.0	32.5	7.7	20.0	19	63	25.0
6月	6.5	2.0	31.9	14.3	22.2	39	80	162.0
7月	6.2	2.0	35.2	19.4	25.5	47	82	110.5
8月	7.3	2.0	38.2	19.5	27.6	44	80	163.5
9月	7.5	2.3	37.1	14.6	24.5	44	79	115.5
10月	9.5	2.2	30.9	8.7	18.5	39	80	112.0
11月	9.0	2.3	22.0	3.0	12.8	40	74	30.5
12月	7.8	1.8	18.9	-0.1	8.5	42	80	102.0
1月	9.7	2.5	16.1	1.0	8.1	38	77	95.0
2月	7.3	2.0	18.0	-1.9	6.9	36	78	77.0
3月	7.7	2.5	23.9	0.6	10.2	28	73	145.5
年間	9.7	2.1	38.2	-1.9	16.5	19	76	1,230.0

表 4-2 風速、気温、湿度、降水量（米子局、R01 年度）

測定月	風速 (m/s)		気温 (°C)			湿度 (%)		降水量 (mm)
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最低値	平均値	
4月	10.6	2.9	28.8	-0.4	12.3	24	70	85.5
5月	10.2	2.7	31.6	4.8	18.8	14	62	25.5
6月	8.8	2.5	29.7	12.9	21.4	37	79	140.0
7月	8.0	2.5	34.7	19.4	25.6	46	81	124.0
8月	9.8	2.4	37.2	19.2	27.5	42	79	136.5
9月	10.2	2.5	35.7	13.4	24.4	40	80	103.5
10月	10.8	2.6	30.5	7.3	18.6	39	80	99.0
11月	9.3	2.7	22.6	1.9	12.5	39	72	17.0
12月	8.3	2.3	18.0	-1.1	8.4	40	77	68.5
1月	12.2	3.1	17.8	-0.4	7.6	41	75	65.0
2月	9.1	2.8	17.6	-2.8	6.5	35	76	56.0
3月	13.7	3.2	24.0	-0.2	9.7	21	71	134.5
年間	13.7	2.7	37.2	-2.8	16.1	14	75	1,055.0

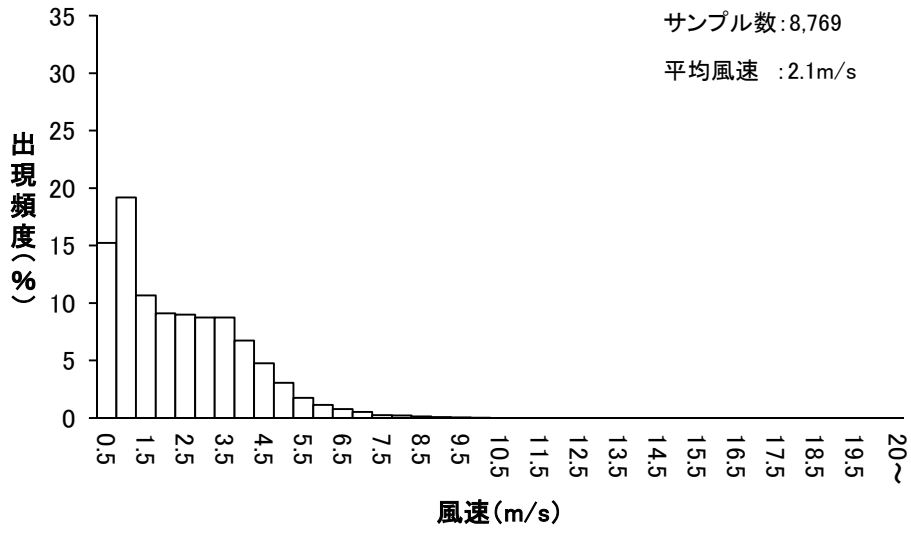


図 4 - 1 風速度数分布 (境港局、R01 年度)

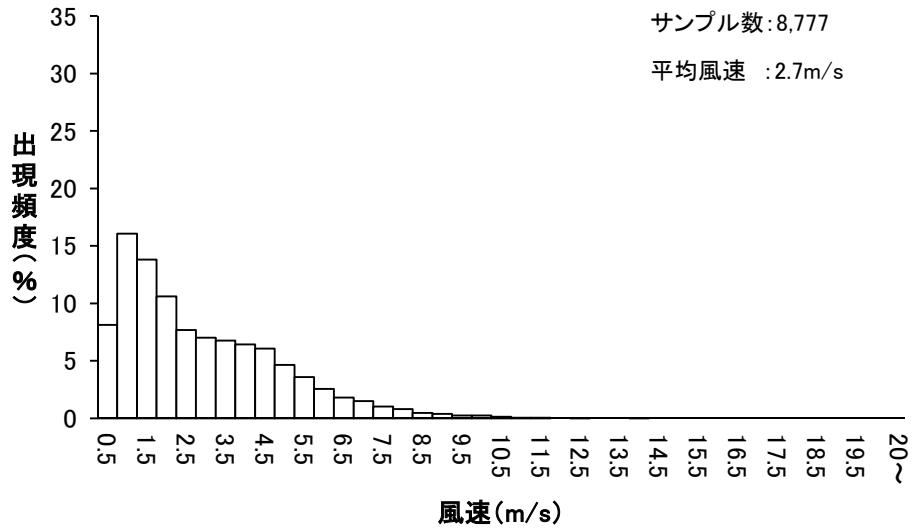


図 4 - 2 風速度数分布 (米子局、R01 年度)

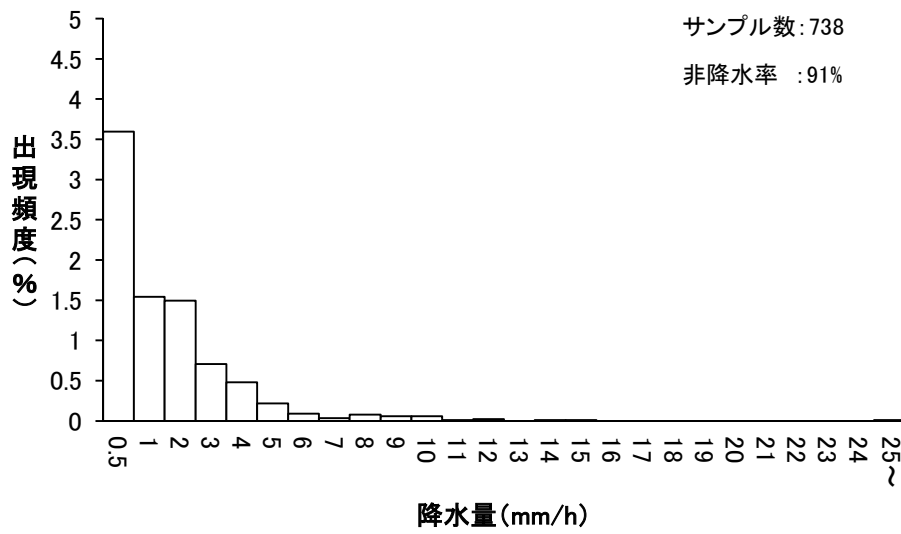


図 4 - 3 時間降水量 (0.5mm/h 以上) 度数分布 (境港局、R01 年度)

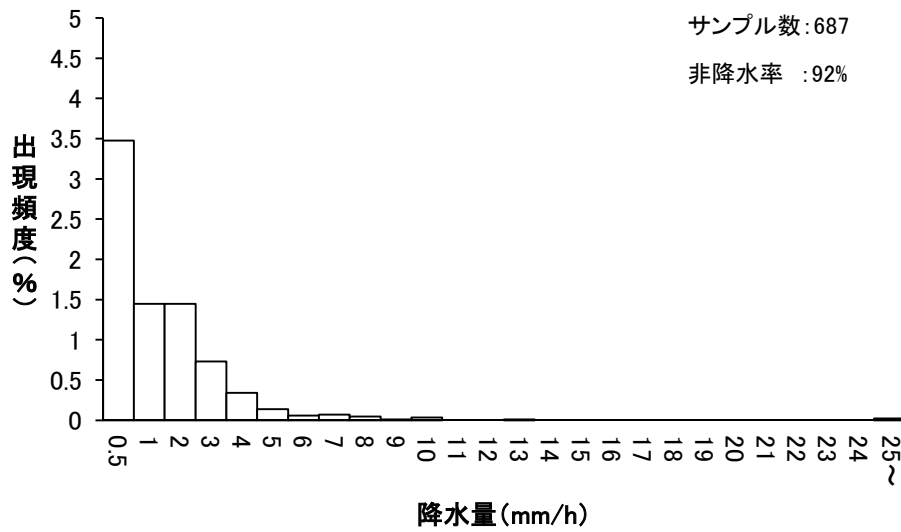


図 4 - 4 時間降水量 (0.5mm/h 以上) 度数分布 (米子局、R01 年度)

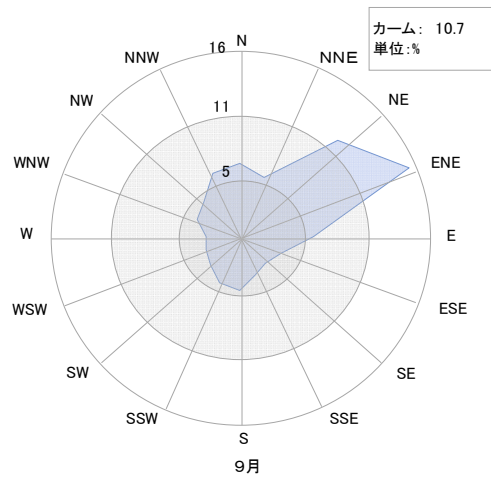
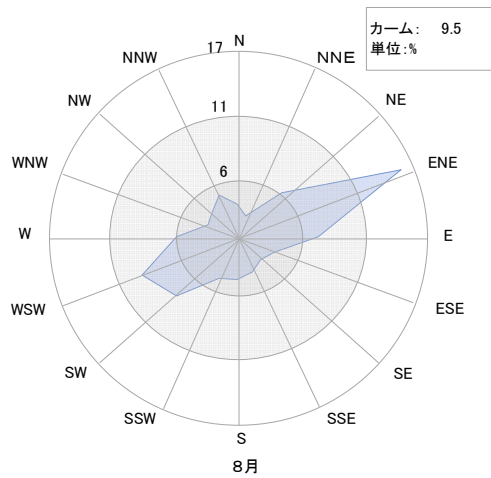
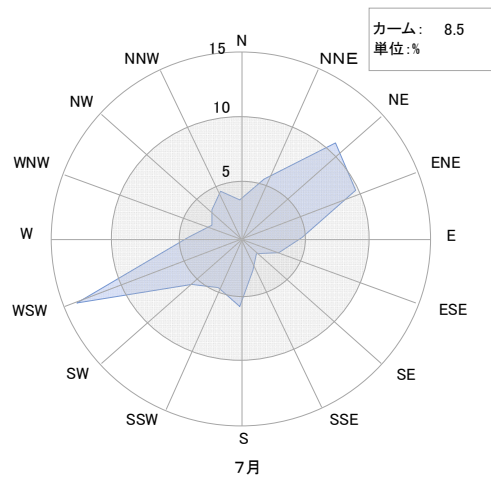
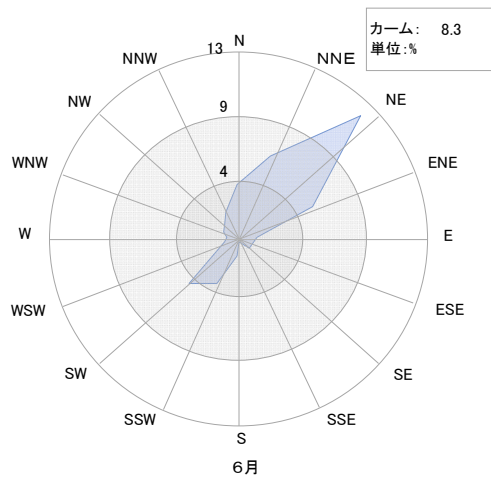
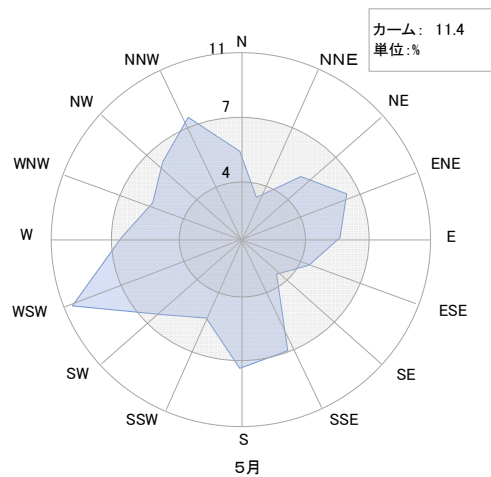
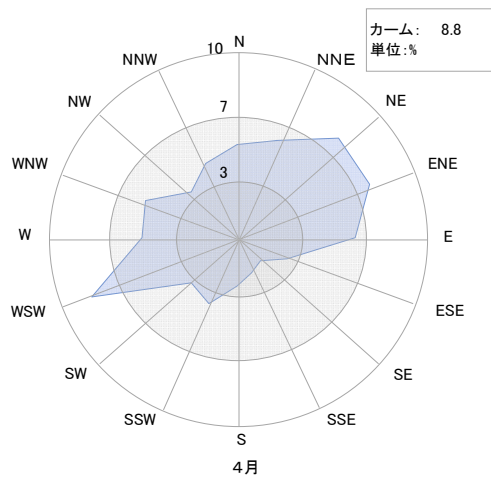


図4-5 a 風配図 (境港局、R01年度)

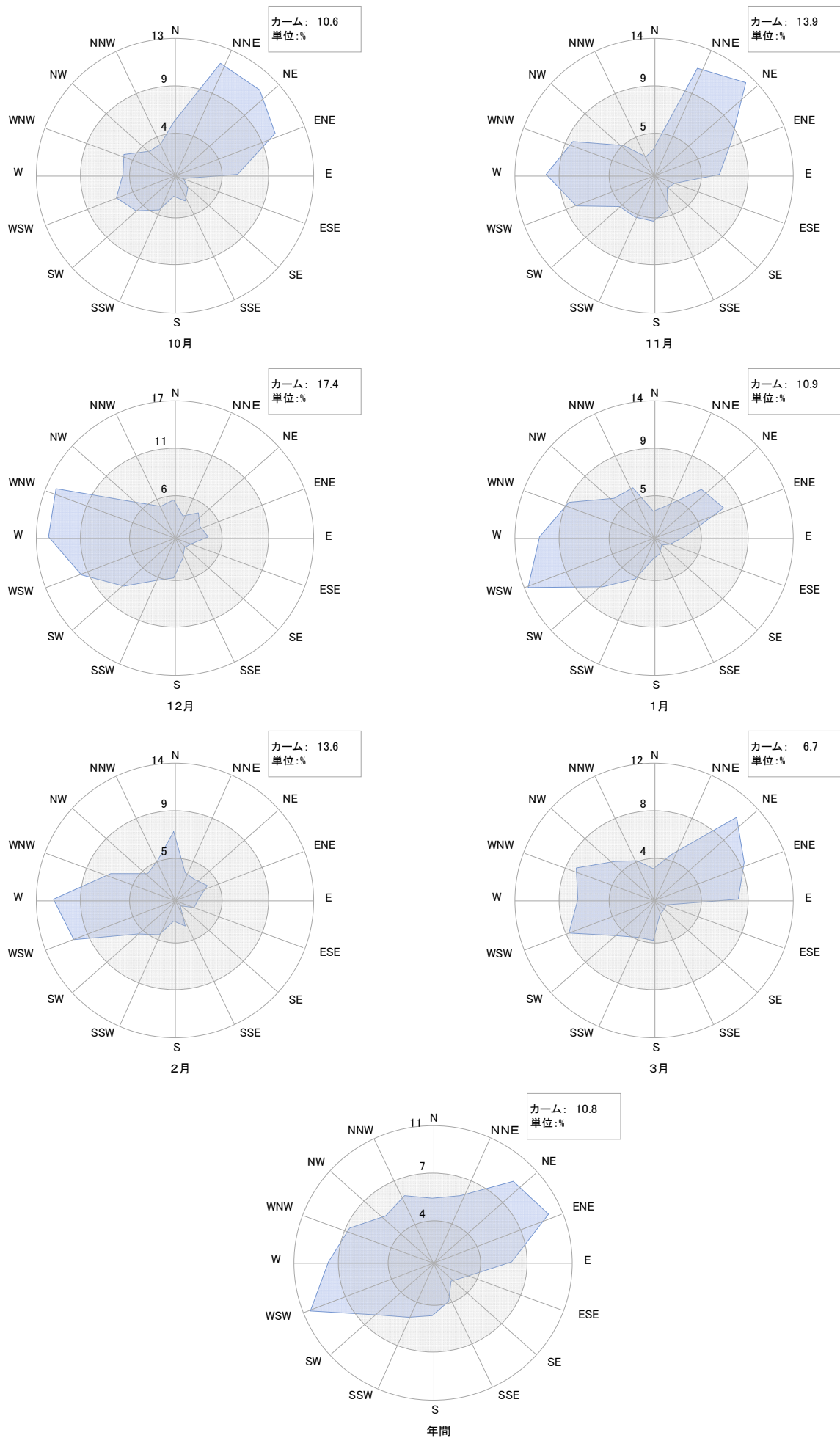


図4-5 b 風配図 (境港局、R01年度)

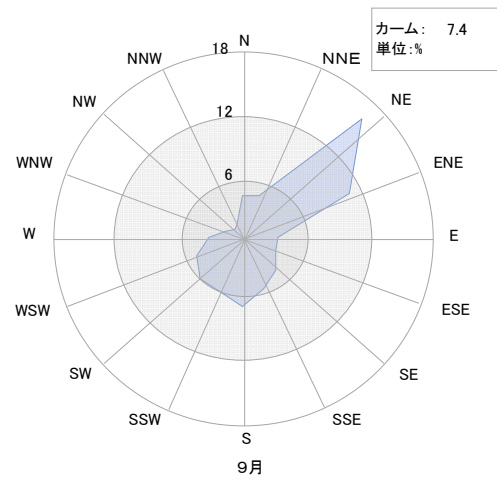
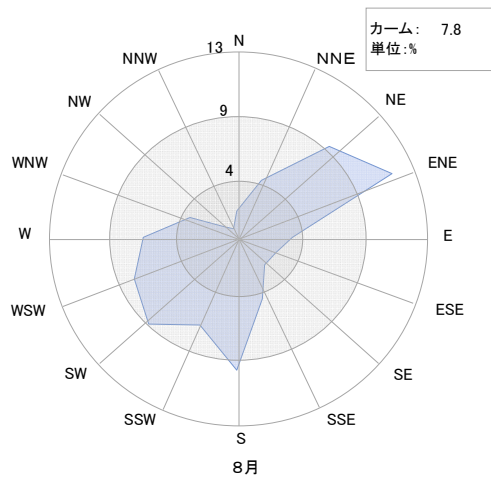
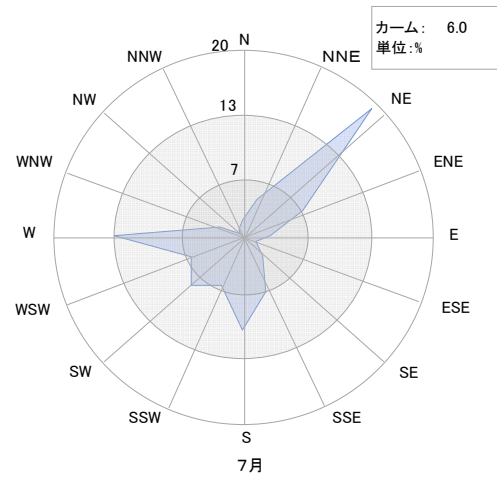
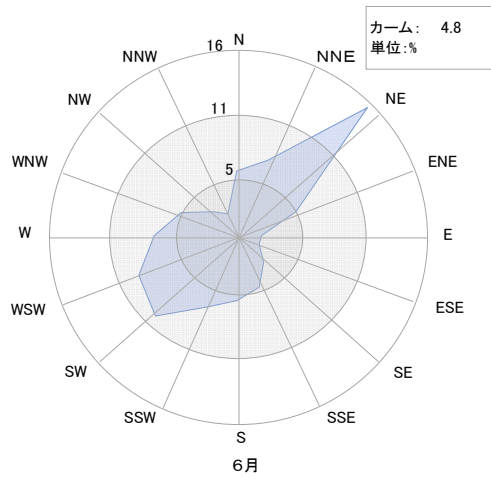
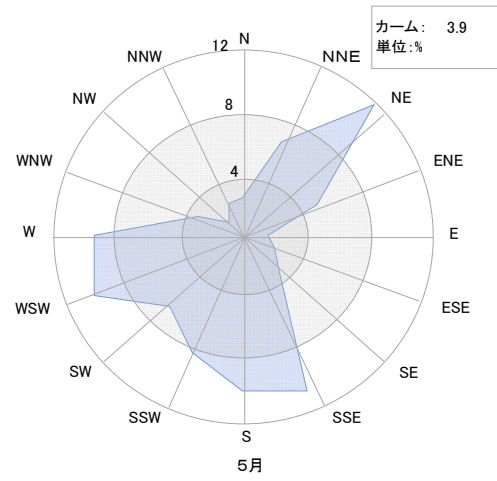
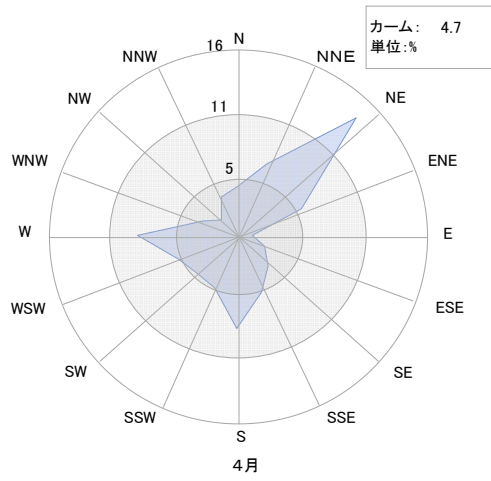


図4-6 a 風配図 (米子局、R01年度)

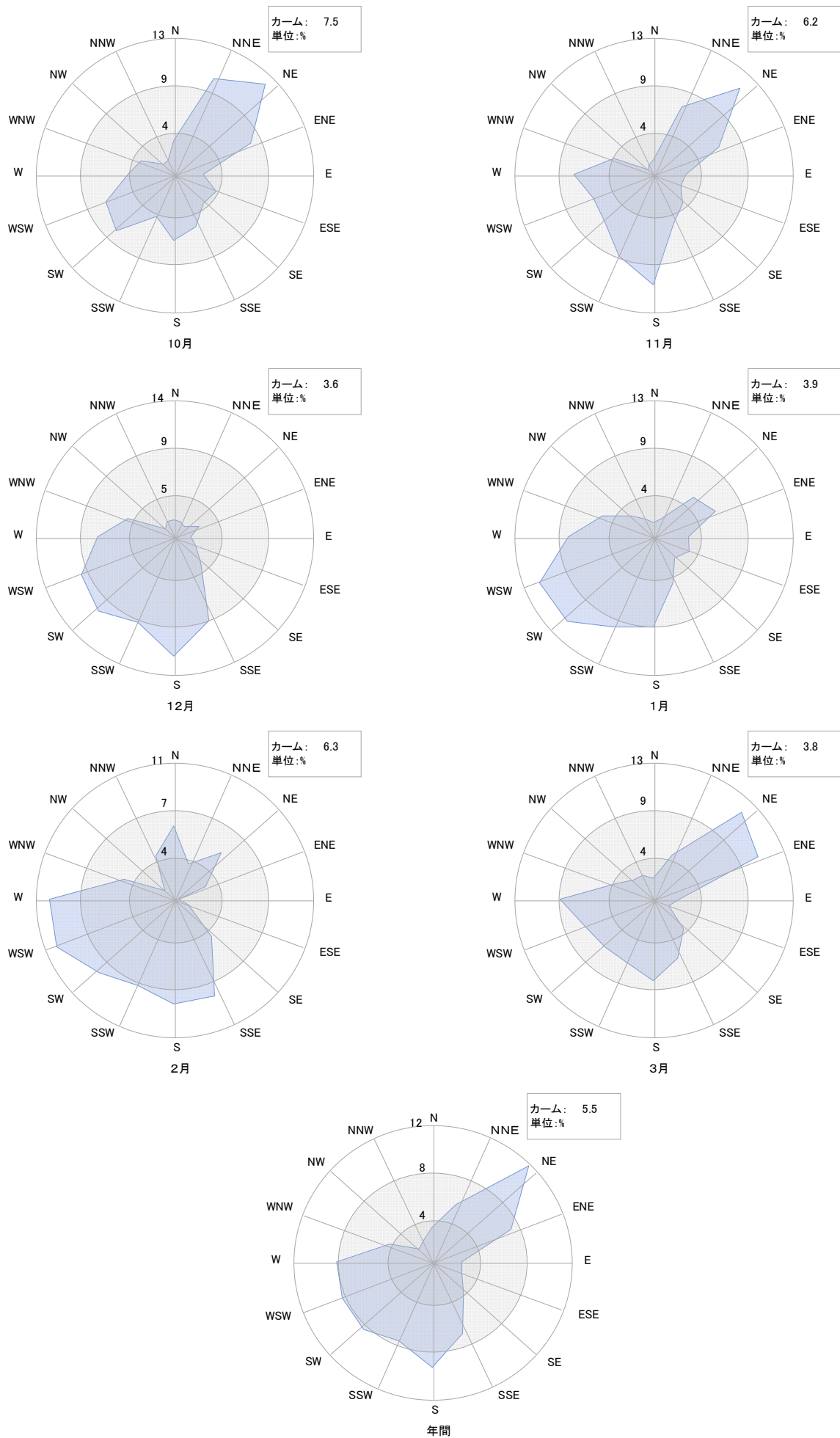


図4-6b 風配図 (米子局、R01年度)

(2) 人形峠環境技術センター周辺

表4-4 風速、気温、湿度、降水量（木地山局、R01年度）

測定月	風速 (m/s)		気温 (°C)			湿度 (%)		降水量 (mm)
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最低値	平均値	
4月	3.7	1.1	22.9	-2.3	9.3	9	75	150.0
5月	4.3	1.2	30.7	2.8	16.1	16	65	63.5
6月	3.3	0.9	29.2	9.7	18.6	30	84	259.0
7月	4.4	0.9	31.0	15.0	22.5	55	87	125.5
8月	3.5	0.9	33.4	15.4	24.6	41	83	118.5
9月	4.4	1.0	30.3	10.0	21.2	48	84	133.0
10月	4.2	0.8	26.3	6.8	15.3	38	86	356.5
11月	3.9	0.7	18.8	-0.9	8.9	38	80	99.0
12月	3.6	0.7	13.2	-1.4	4.8	41	83	139.0
1月	6.8	0.8	12.3	-1.6	3.6	43	81	189.5
2月	4.7	0.8	15.2	-6.3	3.0	22	79	171.0
3月	5.6	1.0	20.0	-2.1	6.6	15	75	171.5
年間	6.8	0.9	33.4	-6.3	12.9	9	80	1976.0

表4-5 日射量、放射収支量、積雪深さ（木地山局、R01年度）

測定月	日射量 (MJ/m ²)		放射収支量 (MJ/m ²)			積雪深 (cm)		
	最高値	平均値	最高値	最低値	平均値	最高値	最低値	平均値
4月	1.87	0.29	1.34	-0.13	0.13	5	0	0
5月	1.88	0.43	1.48	-0.14	0.16	0	0	0
6月	1.98	0.29	1.66	-0.12	0.10	0	0	0
7月	1.75	0.25	1.40	-0.11	0.10	0	0	0
8月	1.76	0.29	1.45	-0.30	0.11	0	0	0
9月	1.68	0.23	1.25	-0.24	0.08	0	0	0
10月	1.68	0.16	1.15	-0.12	0.05	0	0	0
11月	1.34	0.16	0.60	-0.14	0.00	0	0	0
12月	1.05	0.09	0.49	-0.14	-0.01	0	0	0
1月	1.25	0.10	0.50	-0.13	0.01	0	0	0
2月	1.54	0.15	0.98	-0.18	0.02	29	0	2
3月	1.78	0.25	1.23	-0.14	0.10	5	0	0
年間	1.98	0.22	1.66	-0.30	0.07	29	0	0

表 4-6 感雷 (木地山局、R01 年度)

測定月	感雷 (回/h)		測定月	感雷 (回/h)	
	最大值	平均值		最大值	平均值
4 月	1	0	10 月	4	0
5 月	8	0	11 月	0	0
6 月	1	0	12 月	0	0
7 月	2	0	1 月	1	0
8 月	0	0	2 月	2	0
9 月	5	0	3 月	1	0
			年間	8	0

表 4-7 大気安定度出現頻度 (木地山局、R01 年度)

(単位：上段 時間、下段 %)

月 分類	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間
A	47 (7)	107 (14)	61 (9)	28 (4)	68 (9)	32 (4)	30 (4)	16 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (2)	42 (6)	448 (5)
A-B	81 (11)	103 (14)	78 (11)	93 (13)	83 (11)	70 (10)	47 (6)	61 (9)	39 (5)	25 (3)	46 (7)	75 (10)	801 (9)
B	63 (9)	51 (7)	55 (8)	107 (14)	70 (9)	82 (11)	54 (7)	72 (10)	48 (6)	59 (8)	54 (8)	46 (6)	761 (9)
B-C	1 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (1)	1 (0)	4 (1)	17 (0)
C	15 (2)	8 (1)	5 (1)	7 (1)	5 (1)	3 (0)	5 (1)	2 (0)	4 (1)	11 (1)	5 (1)	12 (2)	82 (1)
C-D	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	6 (1)	10 (0)
D	289 (40)	259 (35)	313 (44)	373 (50)	293 (39)	407 (57)	426 (57)	264 (37)	405 (54)	477 (64)	366 (53)	338 (45)	4,210 (48)
E	3 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	6 (1)	16 (2)	0 (0)	6 (1)	2 (0)	2 (0)	5 (1)	2 (0)	48 (1)
F	2 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	3 (0)	1 (0)	5 (1)	7 (1)	27 (0)
G	219 (30)	209 (28)	189 (27)	134 (18)	218 (29)	105 (15)	182 (24)	279 (40)	243 (33)	161 (22)	196 (28)	212 (28)	2,347 (27)
計	720 (100)	744 (100)	706 (100)	744 (100)	744 (100)	717 (100)	744 (100)	705 (100)	744 (100)	743 (100)	696 (100)	744 (100)	8,751 (100)

注： A：強不安定、B：並不安定、C：弱不安定、D：中立、E：弱安定、F：並安定、G：強安定

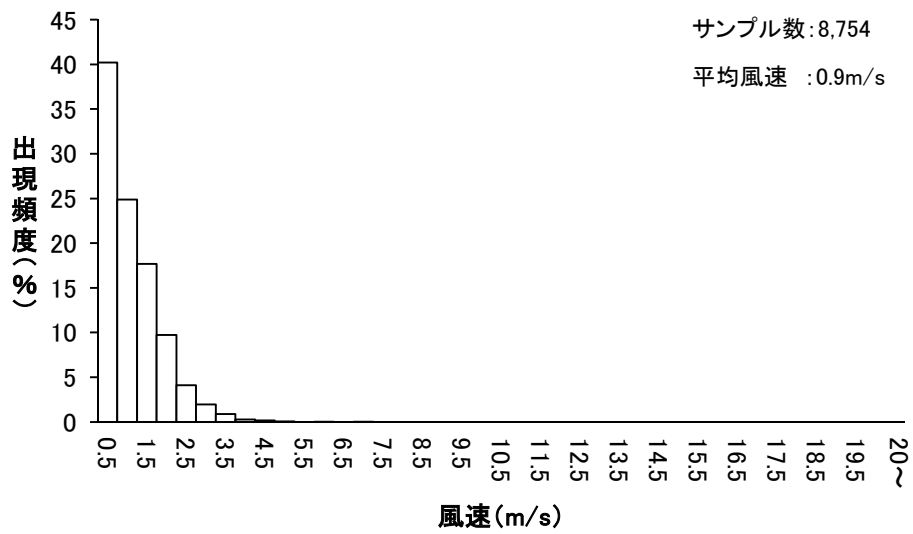


図 4 - 7 風速度数分布 (木地山局、R01 年度)

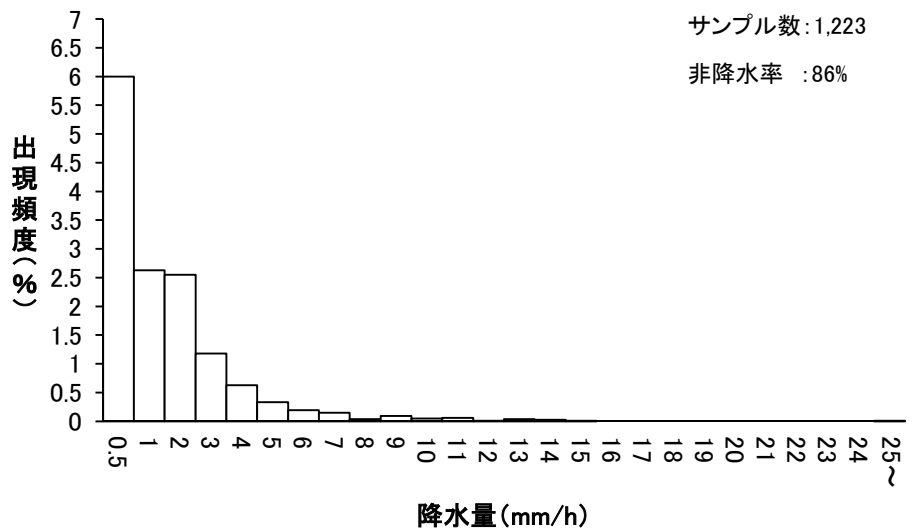


図 4 - 8 降水量 (0.5mm/h 以上) 度数分布 (木地山局、R01 年度)

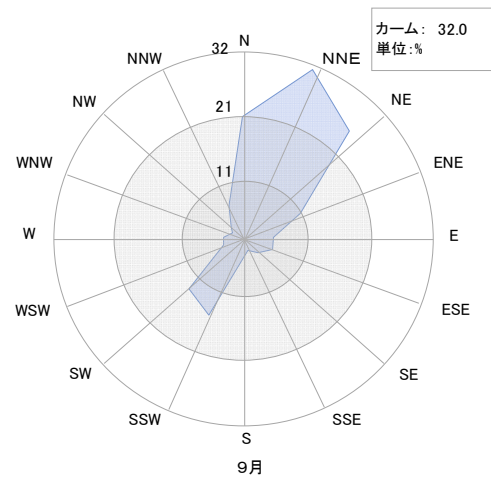
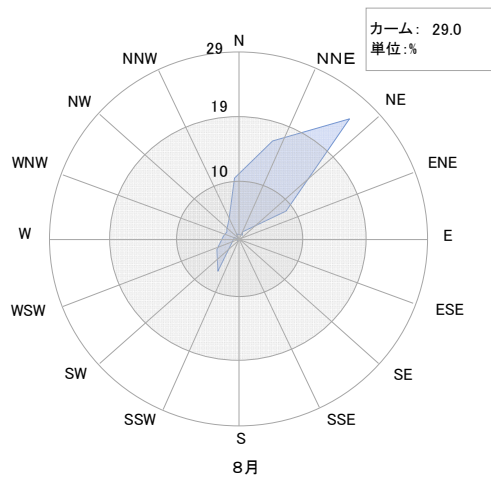
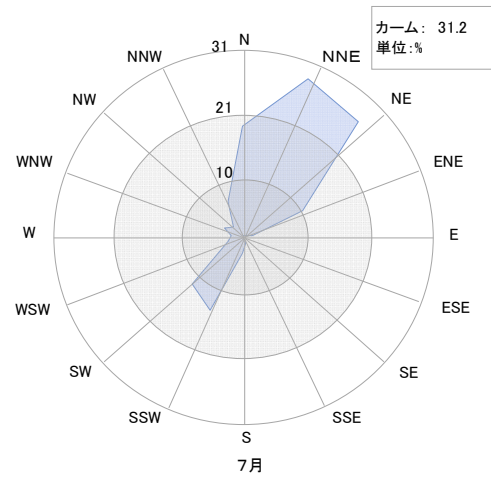
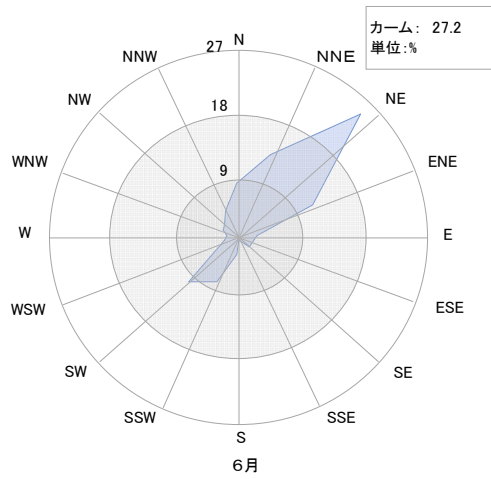
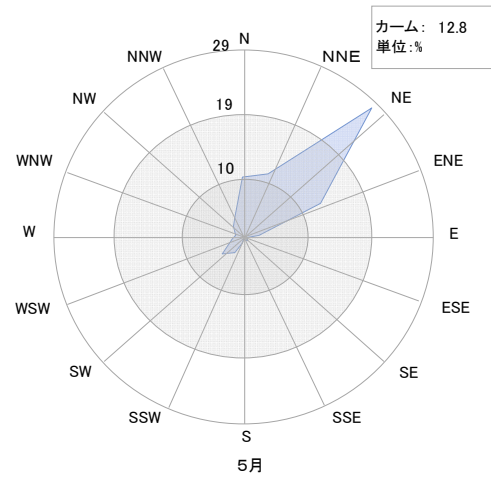
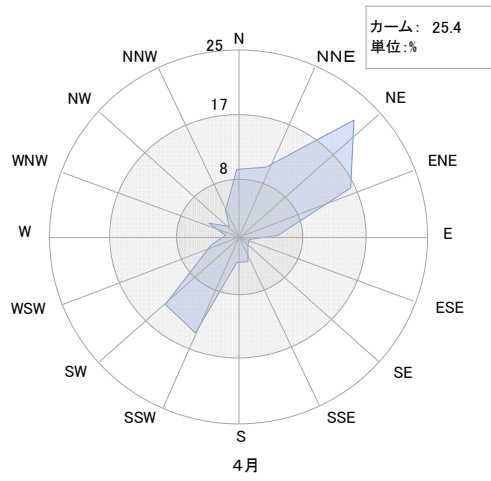


図4-9 a 風配図 (木地山局、R01 年度)

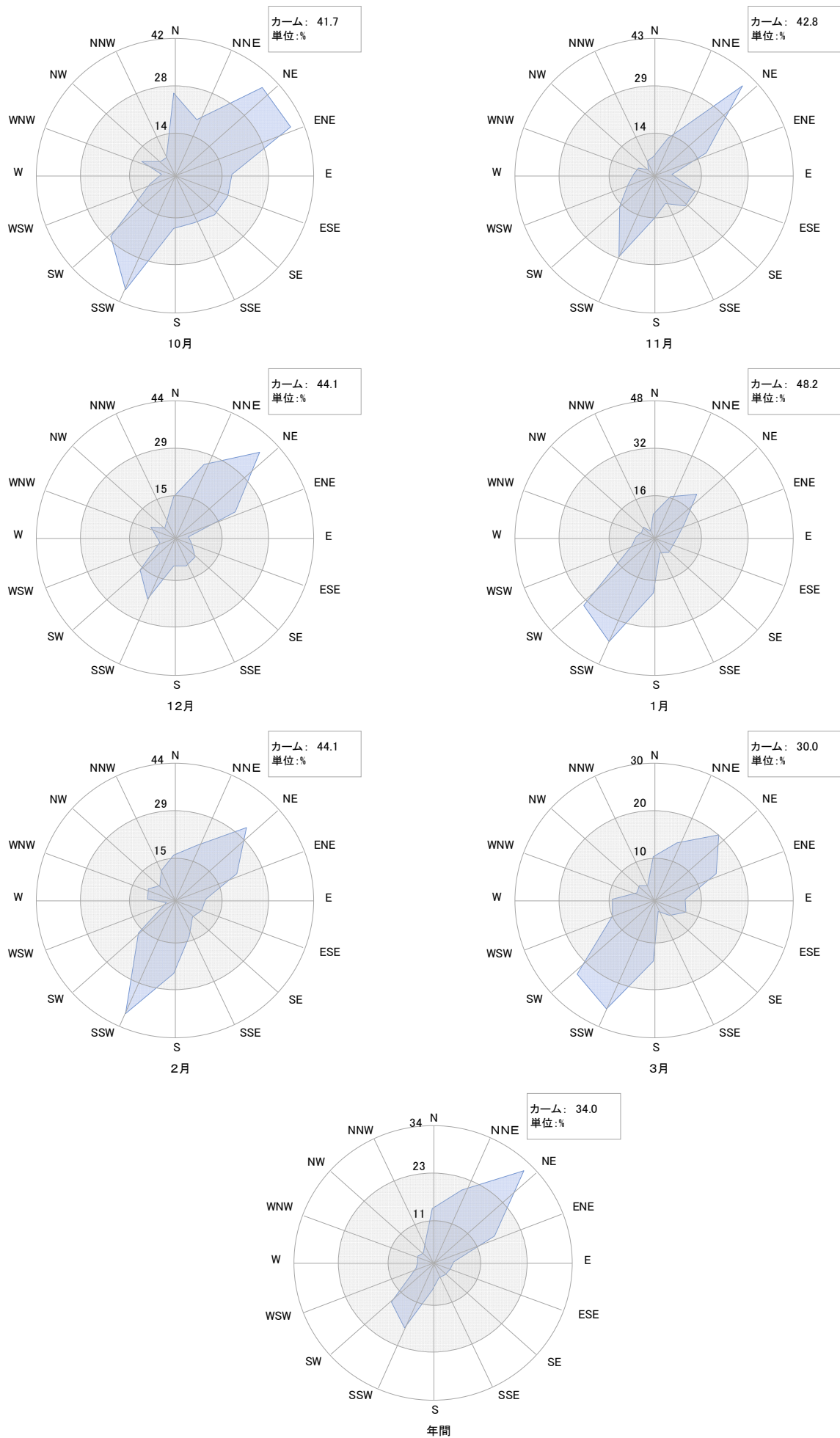


図4-9b 風配図(木地山局、R01年度)

5 用語集

か行

ガンマ線スペクトロメトリー

ゲルマニウム半導体検出器を用いて、ガンマ線のエネルギー分布（スペクトル）を測定し、得られたスペクトルを解析することで、試料に含まれる放射性核種の種類と放射能を求める分析法。化学分離を必要とせず、壊変でガンマ線を放出する核種（Cs-137、Cs-134、I-131 等）を同時に定量することが可能。

空間放射線量率

対象とする空間の単位時間当たりの放射線量。降水があると大気中に漂っている天然の放射性核種が地表に落ちてくるため一時的に数値が上昇し、積雪があると大地からの放射線が遮へいされて数値が低下するなど自然現象によっても変動する。なお、本報告書では、単位をマイクログレイ/時 (μ Gy/h) 又はナノグレイ/時 (nGy/h) で表示している（マイクロは 100 万分の 1、ナノは 10 億分の 1 の意味）。

グレイ (Gy)

放射線のある物体に当てたとき、その物体が吸収した放射線のエネルギーを表す単位。1 グレイ (Gy) は、物体 1 キログラム (kg) 当たり、1 ジュール (J) のエネルギーを吸収したときの放射線のエネルギーを表している ($1 \text{ Gy} = 1 \text{ J/kg}$)。

蛍光ガラス線量計

銀活性化リン酸塩ガラスを使用した積算線量計。銀活性化リン酸塩ガラスは、放射線が照射された後に紫外線レーザーを当てると、照射された放射線量に比例して蛍光を放出する。この性質を利用し、蛍光量の測定値から放射線量を算出する測定方法。

さ行

ストロンチウム 90 (Sr-90)

原子炉内でウラン等の核分裂により生成する放射性ストロンチウム的一种。カルシウムと類似した挙動をとり、体内に摂取すると骨組織に沈着するため、長期にわたる被ばく線量評価上、重要な核種。物理的半減期は約 29 年。

ストロンチウム分析

環境試料を化学的に処理し、Sr-90 の分離・精製後、壊変で生じる子孫核種のイットリウム 90 (Y-90) の放射能 (β 線) を測定して、Sr-90 の放射能を求める。

積算線量

一定期間、測定した空間放射線の積算量。本報告書では、約 3 か月間の測定値を 90 日間の値に換算して、マイクログレイ/90 日 (μ Gy/90d) で表示している。

全 α 、全 β 放射能

試料から放出される α 線又は β 線をエネルギーで区分することなく測定した放射能。本調査では、ダストモニタにおいて、フィルター上に捕集した浮遊じんの全 α 又は全 β 放射能を測定している。全 α 及び全 β 放射能の比は、天然の放射性核種に起因するものであれば一定の幅の中で推移するため、事故等により人工放射性核種の影響を受ければ大きく変動する。

た行

トリチウム ($H-3$)

水素の放射性同位体であり、物理的半減期は約 12 年。宇宙線が大気中の窒素、酸素等と核反応して生成するほか、原子炉内でウランの核分裂等により生成する。天然に存在するトリチウムは、主に水（トリチウム水）として存在する。

トリチウム分析

試料を液体シンチレータ（液体発光物質）に溶かし、試料が出す放射線のエネルギーを吸収して発する蛍光を液体シンチレーションカウンタで測定してトリチウムの放射能を求める。

は行

フッ素

人形峠環境技術センターに保管されている六フッ化ウラン (UF_6) が事故等により漏洩した場合、大気中の水分と反応して、フッ化水素 (HF) が生成する。フッ化水素は、人の組織に強い腐食性を有し、皮膚、粘膜、呼吸器の障害等を引き起こすおそれがあり、本調査では、フッ素イオン濃度として測定を行っている。

ベクレル (Bq)

放射能を表す単位。1 ベクレル (Bq) は、1 秒間に 1 個の原子核が壊変する物質の放射能を表す。

放射性核種

放射能を持つ元素。また、放射性核種を含む物質を一般的に放射性物質と言う。

放射線

放射性核種から放出される高速の粒子や高いエネルギーを持った電磁波などのことを言い、主なものに、アルファ線 (α 線)、ベータ線 (β 線)、ガンマ線 (γ 線) がある。 α 線は、陽子 2 個と中性子 2 個からなるヘリウムの原子核と同じ構造の粒子であり、物質を透過する力は弱く、皮膚の表面や紙一枚程度で止める（遮へい）ことができる。ベータ線は、原子核から飛び出した高速の電子であり、物質を透過する力は α 線よりは強いが γ 線よりは弱く、薄いアルミニウム板等で止める（遮へい）ことができる。ガンマ線は、励起状態にある原子核が安定状態になるときに放出される電磁波であり、物質を透過する力は β 線より強く、遮へいするためには厚い鉛やコンクリートが必要である。

放射能

放射性核種が放射線を出して壊変する性質又は強さ（壊変の起こりやすさ）。

ま行

モニタリングシステム

空間放射線量率等を監視するため、モニタリングポスト等の測定データを収集するシステム。本県では、島根県、岡山県、事業者からも測定データの提供を受け収集を行っている。

モニタリング車

空間放射線量率測定装置（モニタリングポスト）、浮遊じん採取装置、全 α ・全 β 検出器、気象観測装置等を搭載したモニタリング専用の車両。

モニタリングポスト

空間放射線量率を連続測定するための装置。可搬型モニタリングポストは、持ち運び可能な構造となっているモニタリングポストであり、商用電源のほか、バッテリーでも稼働可能。

や行

預託実効線量

体内に放射性核種が取り込まれると、放射性核種が壊変や排出でなくなるまで体内の組織及び臓器が被ばくすることとなる。被ばくが長期に及んだ場合、実際の被ばく線量を年ごとに評価するのは現実的ではないため、長期にわたって受ける線量を摂取時点に受けたものと見なす手法がとられる。このとき、50年間にわたる等価線量の総量を預託等価線量といい、各組織・臓器の預託等価線量に組織加重係数を乗じた後、合計した量を預託実効線量という。

令和元年度環境放射線等測定結果
(島根原子力発電所及び人形峠環境技術センター周辺)

令和2年12月発行

編集・発行

鳥取県危機管理局原子力安全対策課

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目 271

TEL 0857-26-7854

鳥取県危機管理局・生活環境部原子力環境センター

〒682-0704 鳥取県東伯郡湯梨浜町南谷 526-1

TEL 0858-35-5411